

平成24年度

# 教育委員会活動の点検・評価報告書

平成24年9月

松阪市教育委員会

## 目 次

I	はじめに	1
II	松阪市教育ビジョンに係る「夢ナビゲーション」別の事業評価	
1	事業評価の方法	2
	松阪市教育ビジョン基本構想図	3
2	各事業の達成度、重要度、総合評価、事業年度、決算額一覧表	4～6
3	評価シート	7～50
4	総評	51
III	教育委員会の活動状況	51～52
IV	第三者評価（学識経験者の知見の活用）	
1	第三者評価委員	53
2	第三者評価	53～56
V	おわりに	56

## I はじめに

松阪市教育委員会は、平成19年12月に将来の松阪市を担う子どもたちをはじめすべての市民が暮らしやすい、「質の高い教育・文化にふれあうまちづくり」をめざし、今後10年間の松阪市の教育のあるべき姿を構築する「松阪市教育ビジョン」を策定しました。

松阪市教育ビジョンは、「夢を育み 未来を切り拓く松阪の人づくり」を基本理念とし、誰もが心に抱いている「夢」をかなえていくための道案内を「夢ナビゲーション」と名付け、「松阪に育ったことを誇りとし、世界の人々とともに生きる子ども」「思いやりをもち、自分らしさを発揮し、行動できる子ども」「じっくり考え、自ら表現し、学び続けようとする子ども」の3つの子ども像を実現するため、「ドキドキ！ワクワク！学びの芽生えを育む就学前教育の充実」「キッチリ！バッチリ！学びの基礎を育む教育の充実」「市民による、市民のための生涯学習の推進」「個性あふれる文化・芸術の振興」「明るい生活を支えるスポーツライフの実現」「新しい教育の創造」の6つの夢ナビゲーションを策定したものであり、教育委員会は、これに基づき、学校教育、家庭教育、社会教育などの教育機能の充実・連携を図るとともに、市民の文化活動やスポーツ活動の機会の充実と質的向上に努めているところです。

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、各教育委員会は、毎年、その教育行政事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが規定されました。

そこで、松阪市教育委員会では、法の趣旨に則り、効果的な教育行政の推進に資するとともに市民の皆様へ説明責任を果たすため、平成19年度の事務事業から「教育委員会活動の点検・評価」（以下、「点検・評価」という。）の対象を「松阪市教育ビジョン」の6つの「夢ナビゲーション」とし、点検・評価を実施し、報告書にまとめ、公表してきました。昨年度、第三者評価による指摘事項を参考に、①各年度の達成状況がわかるように進捗度の項目を追加、②事業規模がわかりやすいように予算額、決算額を追加、③達成度、重要度の表示変更など大幅な改善を行いました。

今回は、平成23年度の主要な事務事業について、できる限りわかりやすく表記することを心がけて作成しました。

### ○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務〔前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。〕の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## Ⅱ 松阪市教育ビジョンに係る「夢ナビゲーション」別の事業評価

### 1 事業評価の方法

「夢ナビゲーション」別に各事業の事業目的、事業内容、検討課題、当該年度の取組、改善案・方向性と複数年にわたる事業の場合は進捗度等を点検・評価し、達成度と重要度を表にして表しました。

【達成度】 A : 「達成できた」  
B : 「概ね達成できた」  
C : 「達成できなかった」

【重要度】 A : 「非常に重要」  
B : 「重要」  
C : 「やや重要」

【総合評価】 A : 計画どおりに事業を進めることが適当  
B : 目的の達成に努め、計画どおりに事業を進めることが適当  
C : 事業の進め方に改善が必要  
D : 事業規模、内容の見直しが必要

《例》

	A			
↑達成度	B			★
	C			
		C	B	A

重要度→

★の位置による総合評価

	A	C	B	A
↑達成度	B	C	B	B
	C	D	C	C
		C	B	A

重要度→

- ※ 事業年度の最終年度が未定の場合については、平成24年度と表記しています。
- ※ 単年度で完結する事業であっても、その事業が開始された年度がわかっている場合は、その年度を表記しています。

# 基本構想図

## 夢を育み未来を切り拓く松阪の人づくり

- ★松阪に育ったことを誇りとし、世界の人々とともに生きる子ども
- ★思いやりをもち、自分らしさを発揮し、行動できる子ども
- ★じっくり考え、自ら表現し、学び続けようとする子ども

### 夢ナビポイント

夢を実現する道の途中では、自らを高めようと精一杯努力したり、時には立ち止まり迷ったり悩んだりするなどの分岐点があります。その一つひとつの分岐点において達成すべきめあてや方向性を**夢ナビポイント**としました。

※夢ナビポイントは、市民の皆さんからパブリックコメントとしていただいた教育に期待する提言を参考としました。

### 夢ナビゲーション

「将来の自分はこうありたい」という「夢」を抱き、その実現に向けて挑戦し続ける人は輝いて見えます。「夢」の実現という「目的地」に到着するまでの道案内を「**夢ナビゲーション**」としました。



5

### 夢ナビポイント

明るい生活を支える  
スポーツライフの  
実現

- ① スポーツ・レクリエーション活動を通じた健康づくりの推進
- ② 健康・競技・娯楽としてのスポーツ環境の充実
- ③ 競技スポーツの振興



1

### 夢ナビポイント

ドキドキ!ワクワク!  
学びの芽生えを育む  
就学前教育の充実

- ① “キラキラ”笑顔が輝く楽しい教育内容の創造
- ② 新たな子育て支援の充実
- ③ 子どもの成長を支える研修の推進

1

2

2

キッチリ!バッチリ!  
学びの基礎を育む  
教育の充実

- ① 確かな学力を育む教育の推進
- ② 豊かな心を育てる「心の教育」の推進
- ③ 一人ひとりを大切にする特別支援教育の推進
- ④ ふるさと松阪に学ぶ教育の推進
- ⑤ 保育園・幼稚園から中学校までのつながりをおこなった教育の推進



4

### 夢ナビポイント

個性あふれる  
文化・芸術の振興

- ① 市民文化・芸術活動の創造
- ② 豊かな文化遺産の活用と次世代への継承

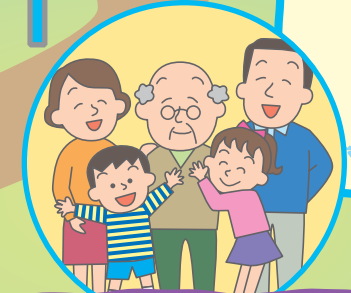
4

3

3

市民による、  
市民のための  
生涯学習の推進

- ① 生涯学習活動の推進のためのシステムづくり
- ② 青少年の健やかな育ちのサポート
- ③ 市民が集い、学び合える環境の充実
- ④ 家庭・地域・社会における人権教育の推進



6

### 夢ナビポイント

輝け!松阪!  
新しい教育の  
創造

- ① 松阪の教育特性を生かした教育改革の推進
- ② 学びを支える教育環境の充実
- ③ 信頼と誇りのもてる学校づくりの推進



6

### 夢ナビポイント

- ⑥ みんなの人権を大切にした教育の推進
- ⑦ 外国人児童生徒教育の推進
- ⑧ 学びの世界が広がる情報教育の推進
- ⑨ 世界とふれあう、世界とつながる国際理解教育の推進
- ⑩ 松阪の豊かな自然に学ぶ環境教育の推進
- ⑪ 本との出会いを大切にする読書教育の推進
- ⑫ 将来の基礎を育むキャリア教育の推進
- ⑬ 健やかな心と体をつくる食教育の推進
- ⑭ つながり合い、高め合う学校スポーツの推進
- ⑮ 豊かな教育を支える教職員研修の推進

## 2 各事業の達成度、重要度、総合評価、事業年度、決算額一覧表

### (1)ドキドキ！ワクワク！学びの芽生えを育む就学前教育の充実

シート番号	担当課	事業名	達成度	重要度	総合評価	事業年度	決算額(千円)
1	学校支援課	特色ある学校・園づくり推進事業	A	A	A	平成16年度～平成24年度	15,040
2	学校支援課	学力向上推進プロジェクト事業	A	A	A	平成19年度～平成24年度	2,061
3	子ども支援研究センター	教職員研修事業	A	A	A	平成17年度～平成24年度	1,270
4	子ども支援研究センター	教育相談事業	B	A	B	平成17年度～平成24年度	2,389

### (2)キッチリ！バッチリ！学びの基礎を育む教育の充実

シート番号	担当課	事業名	達成度	重要度	総合評価	事業年度	決算額(千円)
1	学校支援課	特色ある学校・園づくり推進事業	A	A	A	平成16年度～平成24年度	15,040
2	学校支援課	学力向上推進プロジェクト事業	A	A	A	平成19年度～平成24年度	2,061
3	子ども支援研究センター	教職員研修事業	A	A	A	平成17年度～平成24年度	1,270
4	子ども支援研究センター	教育相談事業	B	A	B	平成17年度～平成24年度	2,389
5	子ども支援研究センター	教育支援センター推進事業	B	A	B	平成17年度～平成24年度	2,372
6	学校支援課	特別支援教育推進事業	A	A	A	平成15年度～平成24年度	48,210
7	学校支援課	外国語指導助手(ALT)派遣事業	A	A	A	平成17年度～平成24年度	28,740
8	学校支援課	フューチャースクール推進事業	A	A	A	平成23年度～平成24年度	37,503
9	学校支援課	いじめ等対策事業	A	A	A	平成21年度～平成24年度	12,109
10	人権まなび課	外国人児童生徒受入促進事業	A	A	A	平成22年度～平成24年度	5,443
11	人権まなび課	外国人児童生徒いきいきサポート事業	A	A	A	平成19年度～平成24年度	11,535
12	育ちサポート室	育ちサポート推進事業	A	A	A	平成19年度～平成24年度	15,674
13	給食管理課	学校給食単独調理場備品等整備事業	A	A	A	平成23年度	7,453
14	給食管理課	学校給食センター備品等整備事業	A	A	A	平成23年度	3,843

(3) 市民による、市民のための生涯学習の推進

シート 番号	担当課	事業名	達成度	重要度	総合 評価	事業年度	決算額 (千円)
15	人権まなび課	人権教育地域促進事業	B	A	B	平成19年度～平成24年度	3,521
16	いきがい学習課	新成人のつどい開催事業	A	A	A	平成23年度	327
17	いきがい学習課	青少年健全育成事業	A	A	A	平成23年度	6,098
18	いきがい学習課	こどもまつり大会事業	A	A	A	平成23年度	1,484
19	いきがい学習課	図書館管理運営事業	A	A	A	平成21年度～平成25年度	131,819
20	いきがい学習課	生涯学習振興事業	A	A	A	平成23年度	13,902

(4) 個性あふれる文化・芸術の振興

シート 番号	担当課	事業名	達成度	重要度	総合 評価	事業年度	決算額 (千円)
21	文化課	市美術展覧会開催事業	A	A	A	平成23年度	2,143
22	文化課	歴史的建造物公開事業	A	A	A	平成23年度	3,017
23	文化課	はにわ館開館10周年記念事業	A	A	A	平成23年度～平成24年度	1,198
24	文化課	松坂城跡保存管理計画策定事業	A	A	A	平成21年度～平成23年度	7,601
25	文化課	文化財保存整備事業	A	A	A	平成23年度	4,314
26	文化課	原田二郎旧宅保存整備活用事業	A	A	A	平成22年度～平成24年度	29,922
27	文化課	長谷川家文書調査事業	A	A	A	平成20年度～平成24年度	3,016
28	文化課	まちなか歴史文化活用プロジェクト事業	A	A	A	平成23年度	529
29	文化課	松浦武四郎誕生地保存整備活用検討事業	A	A	A	平成21年度～平成24年度	5,222
30	文化課	文化センターのあり方検討委員会事業	A	A	A	平成23年度	410

(5) 明るい生活を支えるスポーツライフの実現

シート 番号	担当課	事業名	達成度	重要度	総合 評価	事業年度	決算額 (千円)
31	スポーツ振興課	市体育協会加盟団体育成強化補助金	A	B	B	平成23年度	1,400
32	スポーツ振興課	全国大会等出場派遣支援事業	A	A	A	平成23年度	6,586
33	スポーツ振興課	スポーツ大会等運営事業	A	B	B	平成23年度	1,969
34	スポーツ振興課	シティマラソン大会事業	A	A	A	平成23年度	3,500
35	スポーツ振興課	体育施設整備事業	A	A	A	平成23年度	2,642
36	スポーツ振興課	スポーツ少年団補助金	A	B	B	平成23年度	2,420

(6) 輝け！松阪！新しい教育の創造

シート 番号	担当課	事業名	達成度	重要度	総合 評価	事業年度	決算額 (千円)
37	学校支援課	学校支援地域本部事業	A	A	A	平成20年度～平成24年度	1,500
38	教育総務課	中原幼稚園園舎改築事業	A	A	A	平成22年度～平成23年度	116,364
39	教育総務課	豊田幼稚園園舎改築事業	A	A	A	平成23年度～平成25年度	5,935
40	教育総務課	天白小学校校舎改築事業	A	A	A	平成23年度～平成24年度	7,403
41	教育総務課	大河内小学校プール改築事業	A	A	A	平成22年度～平成23年度	52,634
42	教育総務課	嬉野中学校特別教室棟改築事業	A	A	A	平成22年度～平成23年度	68,891
43	教育総務課	嬉野中学校屋内運動場耐震事業	A	A	A	平成22年度～平成23年度	177,027
44	教育総務課	小中学校備品台帳情報整備事業	A	A	A	平成23年度	9,765



### 3 評価シート

点検・評価対象テーマ		【 ドキドキ！ワクワク！ 学びの芽生えを育む就学前教育の充実 】 【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】				番号	1
事業名	特色ある学校・園づくり推進事業				↑ 達成度	重要度 →	
担当課	学校支援課	事業年度	平成16年度～平成24年度			A	★
						B	
					C	B	A
予算・決算	平成22年度決算	15,043 千円	平成23年度決算	15,040 千円	平成24年度予算	15,940 千円	
事業目的	各学校・幼稚園において、幼児児童生徒や地域の実態に即した特色ある教育・学校づくりを推進するための創意工夫に満ちた特色かつ魅力ある教育活動を支援し、幼児児童生徒の生きる力の育成を図る。						
事業内容	<p>学習指導要領、幼稚園教育要領に基づき、松阪市教育ビジョンの実現を図るための特色ある教育活動を各小中学校や幼稚園で展開し、様々な体験活動を通して生きる力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業、林業等体験、職業体験、国際理解教育、環境教育等の実施</li> <li>・授業力向上のための講師招聘</li> <li>・郷土を愛する心を育てる教育の推進 (幼稚園21園、小学校36校、中学校12校を対象)</li> </ul>						
複数年にわたる事業の場合進捗度等	幼児児童生徒の実態、地域の実情に応じた教育活動を毎年行うことができ、幼児児童生徒の生きる力の育成に大きく寄与している。単年度契約(市長と推進委員長)であり、前年度の成果と課題に基づき次年度の活動につなげている。地域住民の協力を得て、農業体験、環境保全・美化等様々な体験を通して確かな学力や豊かな人間性・社会性を育成している。						
検討課題	特色ある学校・園づくり推進事業の目的が地域や保護者のみなさんにもよく周知され、地域の人材をはじめとする教育資源の活用や、個に応じた指導等各学校・園の実態に即した教育活動が推進できるようになってきた。さらに、地域や保護者のみなさんに支援していただきながら本事業が推進できるよう情報発信を引き続いて行っていくようにする。						
当該年度の取組	<p>松阪市教育ビジョン、学校教育の方針に示されている教育内容の実現を図るための事業の展開を行っている。また、校内での研究や研修のために講師を招へいするなど教職員の資質向上や教育活動の充実に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園・・・地域での体験活動、絵本の読み聞かせ、野菜や花作り等の栽培活動、近隣の幼稚園・小学校との交流など</li> <li>・小学校・・・体験活動、稲作等の農業体験、CRT、読書活動、環境美化活動など</li> <li>・中学校・・・体験活動、福祉体験、職業体験、読書活動、環境教育の推進など</li> </ul>						
改善案・方向性	松阪市教育ビジョンの実現に向け、地域の教育資源の活用や個に応じた指導など各学校・園の状況を踏まえた特色ある教育が今後も重要となるため、更なる充実が必要であり、保護者・地域から信頼される学校・園づくりを推進していく。						

点検・評価対象テーマ		【 ドキドキ！ワクワク！ 学びの芽生えを育む就学前教育の充実 】 【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】			番号	2	
事業名	学力向上推進プロジェクト事業			↑ 達成度	重要度 →		
担当課	学校支援課	事業年度	平成19年度～平成24年度		A		★
					B		
				C			
予算・決算	平成22年度決算	1,768 千円	平成23年度決算	2,061 千円	平成24年度予算	2,527 千円	
事業目的	<p>・各中学校区において、「確かな学力」の向上、「豊かな心」の心の育成を図ることを目指し、幼小中が連携し、就学前から小学校、中学校までの子どもの発達段階に応じた、目標や課題を設定し、それらの解決、達成に向けた取組を推進する。</p>						
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの実態に応じた「めざす子ども像」などの指導重点項目の設定</li> <li>・効果的な指導方法及び評価方法等の研究を進めるための推進協議会の設置</li> <li>・幼小中が継続的に指導できるためのツールの開発と工夫</li> <li>・指導観の共有化を図るための教員研修や授業交流の実施</li> </ul>						
複数年にわたる事業の場合進捗度等	<p>平成19年度以来、毎年2中学校区を指定校区とし、松阪市の幼小中連携教育が本格的にスタートした。校区のめざす子ども像や共通テーマ、それぞれの発達段階ごとに育てたい力を設定し、互いの保育・授業を参観し合ったり、合同で授業を行ったり、また、授業体験やクラブ体験、先輩質問会などを実施したりと、それぞれの地域の特色を生かした取組を進めてきているところである。</p>						
検討課題	<p>松阪市の各中学校区は、1小1中が隣接している校区、1小1中で地理的に離れた校区、複数幼・複数小・1中の校区等とそれぞれ状況が違っている。それぞれの地域や子どもたちの実態を踏まえ、各中学校区において、幼稚園・小学校・中学校が連携し、学力向上にむけた一貫した教育活動の推進を図るとともに、保育園との連携、保護者・地域の啓発等を進める必要がある。</p>						
当該年度の取組	<p>幼小中連携教育モデル校区に4校区（平成22・23年度大江中・嬉野中学校区、平成23・24年度は殿町中・飯南中学校区）を指定して、校区の特色に応じた連携教育を推進した。1月には、中間報告会を実施し、殿町中・飯南中学校区の取組を市内教職員に成果を発信した。また、11月には、大江中・嬉野中学校区が実践発表会を開催し、市内外教職員に成果を発信した。各校区においても、教職員交流や幼児児童生徒交流など、校区の「めざす子ども像」をもとにした取組が進められている。</p>						
改善案・方向性	<p>各中学校区の特色を生かし、幼稚園・小学校・中学校が連携し、学力向上にむけた一貫した教育活動の推進を図るとともに、教職員や幼児児童生徒の交流などを通して保育園との連携を深めたり、学校だより等を通して保護者・地域への啓発を行ったりするなど、保護者や地域への理解を深める。また、学校・家庭・地域が一体となった取組が求められる。</p>						

点検・評価対象テーマ		【 ドキドキ！ワクワク！ 学びの芽生えを育む就学前教育の充実 】 【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】				番号	3	
事業名	教職員研修事業				↑ 達成度	重要度 →		
担当課	子ども支援研究センター	事業年度	平成17年度～平成24年度			A		★
						B		
					C			
予算・決算	平成22年度決算	639 千円	平成23年度決算	1,270 千円	平成24年度予算	1,267 千円		
事業目的	子どもたちの確かな学力の定着を図り、園・学校生活での満足度を高めるため、保育士や教職員の自主的な学びを大切にした研修を実施し、実践的指導力の向上を目指す。							
事業内容	保育士及び幼稚園・小中学校の教職員等を対象に、今日的課題やニーズに沿った内容で、日常の保育教育実践や研究、あるいは保育教育実践上の問題解決に役立つ研修の場を提供する。 ・教科・領域指導研修、教育課題別研修、専門研修、教育講演会等							
複数年にわたる事業の場合進捗度等	平成22年度まで、幼稚園・小中学校教職員対象の「教職員研修事業」と、保育士及び幼稚園・小学校教職員対象の「乳幼児教育研修事業」の2事業に分けて実施していたが、平成23年度より、保・幼・小・中の連携を大事にする視点から研修事業を統合し、本事業に一本化して実施している。							
検討課題	個人の意識や学校事情等により、講座の受講状況に差が見られる。保育士や教職員が自らの専門性を高めるため、自主的・主体的に学び続けることへの意識向上を図れるようさらなる取り組みが必要である。							
当該年度の取組	当該年度は、「新学習指導要領における教育内容の改善事項に即したテーマ」「実技や実習、ワークショップ型等のより実践的な研修方法」「地元で特色ある実践を行っている教師を講師に」を重視した研修講座の構築を行い、35講座を実施した。 ・延べ受講者数 3,160人 ・参加者の受講満足度 97%							
改善案・方向性	講座アンケート結果等をもとに、ニーズに応じた魅力ある講座構築に努めるとともに、講座案内チラシやセンターだより、ホームページ等で、掲載内容・方法を工夫した研修参加への啓発を行う。							

点検・評価対象テーマ		【 ドキドキ！ワクワク！ 学びの芽生えを育む就学前教育の充実 】 【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】				番号	4
事業名	教育相談事業				↑ 達成度	重要度 →	
担当課	子ども支援研究センター	事業年度	平成17年度～平成24年度			A	
						B	★
					C		
予算・決算	平成22年度決算	219 千円	平成23年度決算	2,389 千円	平成24年度予算	3,041 千円	
事業目的	子どもたちの健やかな成長を願い、心や生活上で悩みを抱えた幼児児童生徒及びその保護者・教職員等関係者への相談を行うことにより、個々の課題解決に向けての歩みを支援する。						
事業内容	必要に応じて関係機関と連携を取りながら、相談者のニーズに応じた相談を実施し、心の安定を図れるよう支援を行う。 ・教育相談(所員による相談)…来所・電話相談、第三土曜相談 ・カウンセラー相談(臨床心理士によるカウンセリング)						
複数年にわたる事業の場合進捗度等	「教育相談事業」に加え、平成17年度からは専門家によるカウンセリングを「心のカウンセラー相談員配置事業」として実施してきたが、相談支援をより有効的に進めていくため、平成23年度から、2つの相談事業を統合し、本事業に一本化した。 相談者のニーズを考慮し、「土曜相談(月1日)の実施」「カウンセラー相談の回数増」等、相談体制の充実を図ってきている。						
検討課題	・効果的な相談支援を進めていくために、相談申込み時の早期対応や、継続的・定期的な相談が実施できるよう、体制の充実を図っていく必要がある。 ・子どもたちの抱える心の課題やその背景は、複雑・多様であり、専門的な視点からの見立てや支援を必要とするケースが増加していることから、担当者の力量を高めるとともに、カウンセラーとの連携を密にして、適切な相談支援を進めていく必要がある。						
当該年度の取組	専門家への相談希望が多いことから、当年度は、カウンセラー相談を月1回増やすとともに、教育相談担当者との連携をより密に持つことに配慮しながら、相談支援を進めた。 相談述べ件数 1,010件、相談実人数 158人 ・教育相談 729件(面接相談562件、電話167件) ・カウンセラー相談 281件、108回実施						
改善案・方向性	・カウンセラー相談の回数増、土曜相談の拡大、夕方相談枠の設定等、より相談者のニーズに応じた相談しやすい体制づくりを行う。 ・各種研修会や担当者会等への積極的な参加により、担当者の力量アップを図る。						

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】			番号	5			
事業名	教育支援センター推進事業				↑ 達成度 ↓	重要度 →			
担当課	子ども支援研究センター	事業年度	平成17年度～平成24年度			A			
						B			★
						C			
予算・決算	平成22年度決算	2,394 千円	平成23年度決算	2,372 千円	平成24年度予算	2,374 千円			
事業目的	不登校児童生徒が安心して過ごせる居場所を提供し、一人ひとりの状態に応じた指導を行うことにより、学校復帰や社会的自立を支援する。								
事業内容	<p>教育支援センター「鈴の森教室」「うれしの教室」を開設し、情緒の安定、人間関係づくり、集団適応能力の育成、基礎学力の補充、基本的生活習慣の改善等に向けた支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通室指導、体験活動</li> <li>・保護者の会、担任会、スクールカウンセラー会議</li> <li>・不登校相談、学校訪問</li> </ul>								
複数年にわたる事業の場合進捗度等	平成17年の合併以来、2教室での活動は8年目となる。立地環境を含め異なる雰囲気を持つ2教室それぞれの利点を生かした教室運営を行うことにより、不登校児童生徒が、より自分の状態に合った教室を選択でき、安心して過ごせる居場所を求めやすくなった。2つの教室で、相談や通室指導を通して関わった児童生徒の改善率も、上昇してきている。(平成17年度51%→平成23年度70%)								
検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲と人間関係を築きにくく1対1対応が必要な児童生徒が増加している。教室での小集団生活の中で、個別対応の時間を確保していくための工夫が必要である。</li> <li>・不登校児童生徒の状態や支援の方向性について、保護者や学校と緊密な情報交換を行い共通理解を図りながら、それぞれの立場での関わりを重ねていくとともに、適切な保護者支援や学校との円滑な連携に向けた取り組みをさらに進めていく必要がある。</li> </ul>								
当該年度の取組	<p>両教室において、通室や相談で関わった児童生徒91人のうち、学校復帰や出席日数の増で改善が見られた児童生徒は64人であった。(改善率70%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通室児童生徒数 43人、通室延べ人数 2,549人</li> <li>体験活動(宿泊体験、山登り等) 7回</li> <li>・保護者の会 3回、担任会 3回、スクールカウンセラー会議 1回</li> <li>・相談延べ件数 2,315件(面接1,673件、電話642件)、学校訪問 310回</li> </ul>								
改善案・方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導員間の細やかな情報交換により、児童生徒個々の状態についての共通理解をもとに、日々の通室指導の中で、個別対応などの必要な関わりを計画的・継続的に行うようにする。</li> <li>・「保護者の会」や「担任会」の内容の充実や参加者の拡大を図るとともに、定期的な学校訪問等により、担任や学校関係者との連携をさらに強化する。</li> </ul>								

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】			番号	6			
事業名		特別支援教育推進事業			↑ 達成度 ↓	重要度 →			
担当課		学校支援課	事業年度	平成15年度～平成24年度		A			★
予算・決算		平成22年度決算	51,627 千円	平成23年度決算		48,210 千円	平成24年度予算	47,218 千円	
事業目的		特別支援教育は、平成19年度より学校教育法に位置づけられ、すべての小中学校・幼稚園において障がいのある幼児・児童・生徒の支援をさらに充実していくこととなった。これらに伴い、小中学校において障がいのある児童・生徒に対し、学校生活上の介助や学習活動上のサポートを行ったりする「学校生活アシスタント」を必要な学校に配置し、障がいのある児童・生徒への支援の充実と、学校運営の円滑化を図る。							
事業内容		特別支援学級や通常の学級に在籍する重度障がいやLD、ADHD、高機能自閉症等の特別な支援を必要とする児童・生徒に対して、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育実践や生活面的支援を行う「学校生活アシスタント」を配置し、適切な指導および支援を実施する。							
複数年にわたる事業の場合進捗度等		本事業は、新市に合併前から行っている事業であり、順調に目的を達成している。平成15年度に介助員の配置としてスタートし、平成19年度以降は、「学校生活アシスタント」と改名し、事業を展開している。							
検討課題		特別な支援を必要とする児童・生徒数は、年々増加傾向にあることから、「学校生活アシスタント」の必要性も急激に高まっている。特別な支援を必要とする児童・生徒の教育的ニーズを把握するとともに、一人ひとりに応じた支援体制を確立し、学校生活や学習上の困難を改善していく必要がある。							
当該年度の取組		<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 基本的な生活習慣確立のための学校生活上の介助(食事、排泄、衣服の着脱の介助等)</li> <li>(2) 発達障がいの児童生徒に対する学習支援</li> <li>(3) 学習活動、教室間移動等における介助</li> <li>(4) 児童生徒の健康・安全確保</li> <li>(5) 運動会(体育祭)、文化祭等の学校行事における介助</li> <li>(6) 周囲の児童生徒の障がい理解促進 など</li> </ul>							
改善案・方向性		障がいのある児童・生徒が主体的に学ぶことができるよう、園・学校・家庭・専門機関が連携を深め、特別な支援を必要とする児童・生徒一人ひとりの状態等に応じて、きめ細かな支援体制を確立する。							

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】			番号	7		
事業名	外国語指導助手(ALT)派遣事業				↑ 達成度	重要度 →		
						A		★
担当課	学校支援課	事業年度	平成17年度～平成24年度		C	B	A	
予算・決算	平成22年度決算	29,750 千円	平成23年度決算	28,740 千円	平成24年度予算	31,219 千円		
事業目的	<p>松阪市内の中学校において、外国語教科の指導補助を行うとともに、小学校の外国語活動において、外国語やその表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力を育成するため、また、幼稚園においてもさまざまな活動に参加し外国文化にふれあう機会を提供する。学校・園での国際化推進を図るとともに、外国語(英語)によるコミュニケーション能力の向上を目指す。</p>							
事業内容	<p>上記目的の達成のために、非常勤職員の雇用及び民間業者への委託を行い、外国語指導助手を9名派遣する。</p>							
複数年にわたる事業の場合進捗度等	<p>外国語教育の重要性はますます高くなってきている。児童生徒のコミュニケーション能力は向上しており、この事業の成果として確実に表れてきている。</p>							
検討課題	<p>小学校の5、6年生での外国語活動必修化に伴い、ALT派遣の要望はさらに高まっている。また、中学校においても、コミュニケーション能力や言語活動の充実が叫ばれる中、外国語(英語)教科の重要性は再認識されている。中学校の外国語教育及び小学校の外国語活動、また総合的な学習の時間における国際理解教育の推進といったことにさらなる充実を図っていく必要がある。</p> <p>また、民間業者委託については、派遣労働法との関連で、今後クーリングオフの期間をどうするか、という問題が生じている。子どもたちの学習環境の確保を第一に考えながら、この課題についても検討していく必要がある。</p>							
当該年度の取組	<p>中学校の英語科、小学校の外国語活動や総合的な学習の時間における外国語教科・外国語活動・国際理解教育の補助をおこなう。また、幼稚園に派遣し、ふれあいを通して国際理解教育の充実を図る。</p>							
改善案・方向性	<p>学習指導要領の改訂に伴い小学校において外国語活動が導入され、第5学年、第6学年で週1時間実施されて、今年度で2年目となる。それに伴い、ALT派遣回数増の要望は高まっている。今後さらに外国語指導助手の派遣を充実していく必要がある。</p>							

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】			番号	8		
事業名	フューチャースクール推進事業				↑ 達成度	重要度 →		
	担当課	学校支援課	事業年度	平成23年度～平成24年度		A		★
				B				
				C				
予算・決算	平成22年度決算		平成23年度決算	37,503 千円	平成24年度予算	42,977 千円		
事業目的	<p>子どもたちが情報機器に慣れ親しみ、操作や情報モラルを身につけながら、主体的・積極的・協働的に学習活動に取り組むことを目指す。</p> <p>教員のICT活用能力、指導力を高め、情報機器を活用した授業が展開されることを目指す。</p> <p>ICT教育にかかわる実践や研究のために、教育委員会の支援体制が充実することを旨とする。</p>							
事業内容	<p>実証研究校として松阪市立三雲中学校を指定し、全生徒、教員へのタブレットPC配備、全普通教室へIWB(電子黒板)を配備し、全校規模の無線LANシステムを構築する。</p> <p>独自の学習支援システムとして、「協働学習支援システム」を導入し、生徒の学習活動に活用する。また、ドリル教材やデジタル教科書も導入していく。</p>							
複数年にわたる事業の場合進捗度等	<p>平成23年度は機器の導入、システムの構築が中心で、実証研究の具体的な内容までは至らなかった。今年度は実証研究が本格実施され、学校の取組として研修体制も確立されてきている。</p> <p>授業における活用事例も多く行われている。</p>							
検討課題	<p>総務省からの委託事業については平成25年度で終了するが、事業そのものは5年程度、すなわち平成27年度程度まで継続して行うよう指示されている。今後、総務省からの委託が終了した後、松阪市独自の取組としてどのように各校へ展開していくのが重要な課題となる。</p>							
当該年度の取組	<p>今年度は実証研究への取組が本格実施となり、学校としても授業の取組が積極的に行われている。研修体制も確立されてきている。7月13日には市会議員の事業への視察が行われ、15人の議員に視察いただいた。また、8月には北海道弟子屈町との生徒間交流がタブレットPCのテレビ電話機能を活用して行われる予定である。</p> <p>事業の進捗を支援する地域協議会が2回開催され、保護者や地域の人も参加していただきながら、事業のよりよい方向に向けて協議を行っている。今後、11月13日に中間発表として授業公開を行う予定である。</p>							
改善案・方向性	<p>今後、当事業との連携事業である文部科学省「学びのイノベーション事業」の実施とも連携しながら、生徒の学習意欲や学力の向上を目指し、実証研究を進めていく。</p> <p>教職員の研修体制を支援し、意欲的な実証研究が行われるようサポートしていく。</p> <p>今後の松阪市内への展開を視野に入れて、どのような展開が最も費用対効果が高いのかよく検討しながら、よりよい方向を模索していく。</p>							



点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】			番号	9		
事業名		いじめ等対策事業			↑ 達成度	重要度 →		
担当課		学校支援課	事業年度	平成21年度～平成24年度		A		★
予算・決算		平成22年度決算	8,747 千円	平成23年度決算		12,109 千円	平成24年度予算	12,225 千円
事業目的	不登校やいじめなどが社会全体において大きな課題となり、学校教育においては、教育の原点に立ち返った早急かつ根本的な対策が求められている。そのため、個々の児童生徒の実情を把握し、心に悩みや不安を抱えている児童生徒を直接的に支援を行う。							
事業内容	いじめや不登校の未然防止に努めるとともに、指導の充実を図るために、ハートケア相談員(小中兼務型相談員)を中学校区に配置し、教職員と連携した心のケアを行う。また、学級満足度尺度調査を行うことにより、児童生徒の実態把握に努め、分析結果を教育環境の改善や学級づくりに活用する。さらに、学校だけでは対応が困難な事案については、司法福祉相談として、専門的な見識の深い学識経験者等から指導助言を受け、実効力のある対応を図る。							
複数年にわたる事業の場合進捗度等	相談員を継続的に配置することで、児童生徒や保護者に安心感を与えている。また、Q-Uという客観的な調査により、個々の児童生徒の実態把握だけでなく、各学級の課題も把握することができている。							
検討課題	学校や児童生徒、保護者を支援するうえで、相談体制の充実を図ることや、子ども支援研究センターや育ちサポート室等の関係機関とより密接に連携を図りながら、チームとして支援をしていくことが、より一層重要となってきている。							
当該年度の取組	ハートケア相談員7名を6中学校12小学校に配置し(相談件数は児童生徒4556件、保護者318件、教育関係者1619件の計6493件)教育相談の充実を図った。Q-Uは38小中学校(学級数307、児童生徒数8054人)で実施し、いじめや不登校の未然防止に活用した。司法福祉相談は、小学校の事案で三重大学医学博士大谷正人教授に2度アドバイスをいただいた。養護教諭のカウンセリングマインドを向上させるため、京都大学心理臨床学桑原知子教授を講師に招き、研修会を持った。							
改善案・方向性	各校においてはQ-U等を活用しながら学級づくりを進め、開発的・予防的生徒指導に取り組んでいるが、対人関係を上手く築けず不登校になってしまったり、問題行動を起こしてしまったりする児童生徒も見られる。いじめ等を未然に防止するためには、日頃からの児童生徒の実態を把握することが重要であるため、本事業を継続していきたいと考える。							

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】			番号	10		
事業名	外国人児童生徒受入促進事業				↑ 達成度	重要度 →		
						A		★
担当課	人権まなび課	事業年度	平成22年度～平成24年度		C	B	A	
予算・決算	平成22年度決算	5,495 千円	平成23年度決算	5,443 千円	平成24年度予算	4,730 千円		
事業目的	外国人児童生徒の在籍の多い小中学校をセンター校(久保中学校、第二小学校、第五小学校)、準センター校(殿町中学校、徳和小学校、花岡小学校)に指定し、三重大学、愛知淑徳大学等関係機関の指導、助言、協力を受け、外国人児童生徒の受入体制や日本語指導の充実及びアンデンティティの確立のため、調査研究を行う。							
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営協議会(事業計画の立案、検討、課題改善策の協議)の開催</li> <li>・プロジェクト会議(具体的な取組みについての計画、検討、改善等を協議)の開催</li> <li>・ネットワーク会議(取組み内容や教材など全市的に共有化)の開催</li> <li>・高校見学バス研修</li> <li>・教職員研修会(日本語指導講座)</li> <li>・フォトストーリーづくり(自分の夢や宝物を映像にまとめ地域に発信)の実施</li> <li>・センター校・準センター校への指導補助者(母語スタッフ)の配置</li> </ul>							
複数年にわたる事業の場合進捗度等	平成22年度から県補助事業(補助率2/3)の新規事業として実施。平成23年度も日本語指導の必要な外国人児童生徒の在籍が増加、分散化する中で、小中学校への受入体制の整備、学校における日本語指導の充実のため、課題の発掘、改善を行い、国際教室の設置及び運営の充実、教材等の作成等をセンター校、準センター校において取り組んできた。さらに課題の改善等調査研究を進めるとともに、センター校、準センター校の取り組みの成果を松阪市全体に広めていく。							
検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上に向け、教科指導能力の向上等</li> <li>・アイデンティティ確立のための取り組みの充実</li> </ul>							
当該年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営協議会の開催(開催数:2回):事業の立案、発生する課題等の改善策等を協議した。</li> <li>・プロジェクト会議の開催(開催数:4回):具体的な取組みについての計画等を協議した</li> <li>・ネットワーク会議の開催(開催数:1回):センター校等の取組みを全市的に情報共有した。</li> <li>・担当者会議の開催(開催数:7回):センター校・準センター校担当者が情報交換を行った。</li> <li>・小中学校指導補助の実施 母語スタッフ5人による指導補助(741回 2,988時間 小学校5校・中学校3校)</li> <li>・多文化理解授業の実施(1校・8クラス 講師:三重大学留学生3人)</li> <li>・高校見学バス研修(見学場所:県内3高等学校、参加者:児童生徒22人・保護者12人・通訳等13人)</li> <li>・就学前支援教室「ふたば」の開催:次年度入学予定の幼児対象に小学校で学ぶための日本語学習や生活規律に関する支援や保護者への情報提供を行った。 (開催数:11回、参加幼児数:8人[のべ79人])</li> <li>・日本語指導講座(開催数1回、講師:三重大学講師 林 朝子 参加者数40人 対象:小中学校教職員・いっぽ教室ボランティア)</li> <li>・フォトストーリーづくりの実施 自分の生活や夢に関する写真にナレーションをつける手法で映像にまとめ、自分を発見し、表現することで、アイデンティティの確立への取り組みを行った。(参加児童生徒数:10人)</li> </ul>							
改善案・方向性	さらにセンター校、準センター校で実践研究を進めるとともに、分散化している外国人児童生徒の在籍校へ実践を広げ各校の受入体制の充実を進める。							

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】			番号	11		
事業名		外国人児童生徒いきいきサポート事業			↑ 達成度	重要度 →		
担当課		人権まなび課	事業年度	平成19年度～平成24年度		A		★
予算・決算		平成22年度決算	10,184 千円	平成23年度決算		11,535 千円	平成24年度予算	11,794 千円
事業目的		小中学校へ在籍する日本語指導の必要な外国人児童生徒の増加、分散化の状況の中、初期の適応支援及び日本語指導等により、学校生活での不安を解消するとともに、高等学校進学や就職など進路指導に関する支援を行う。						
事業内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人児童生徒のための初期適応支援教室「いっぽ」の運営。</li> <li>放課後日本語教室「にじ」の開催</li> <li>母語スタッフによる小中学校への巡回による指導補助の実施。</li> <li>進路保障を目的とした進路ガイダンスの開催等。</li> <li>就学状況調査の実施</li> </ul>						
複数年にわたる事業の場合進捗度等		<p>平成19年度に初期適応支援教室「いっぽ」を開設。また、日本語指導の必要な外国人児童生徒が在籍する学校においては、母語スタッフの巡回による指導補助の拡充など、初期の適応支援及び日本語指導の充実を図ってきた。</p> <p>いっぽ教室については、ハード面の整備や松阪国際交流協会の協力によりボランティアスタッフの充実を行い、平成23年度においては、教室運営を行うコーディネーターを配置するなど運営体制等のソフト面の充実を図り、外国人児童生徒の就学促進において大きな役割を果たしている。</p> <p>初期の適応支援と日本語指導の取組みが定着してきているが、依然として初来日の外国人児童生徒は増加、分散傾向にあり、また、多言語化の状況もあることから今後も、継続的に実施していく必要がある。</p>						
検討課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>平成23年度以降も日本語指導の必要な外国人児童生徒は、増加および分散化、多言語化しており、児童生徒一人ひとりへの母語スタッフの巡回支援の拡充</li> <li>平成23年度以降もいっぽ教室への通級希望者は増加しており、状況に即した日本語指導員等の配置</li> <li>母語保障の取り組みの見直し、再構築の検討</li> </ul>						
当該年度の取組		<p>○平成23年度も日本語指導の必要な外国人児童生徒の増加、在籍状況に応じ、市内在住の外国人12名(対応言語:タガログ語、ホルガル語、スペイン語、中国語、タイ語等)及び日本語指導員3人を雇用し、外国人児童生徒の在籍する小中学校やいっぽ教室等において学校生活の適応支援及び日本語学習支援等を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校巡回指導補助・・・対象校 小学校14校 中学校6校 支援状況 巡回数1,117回(日) 支援時間4,180時間</li> <li>放課後日本語教室「にじ」・・・開催数20回 参加者数31名</li> </ul> <p>○いっぽ教室においては、教室運営のコーディネータを新たに配置(いっぽ教室コーディネーター、ふたば教室コーディネーター各1名)し、運営体制の強化を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>初期適応支援教室「いっぽ」・・・通級児童生徒数41名 内修了児童生徒数27名</li> </ul> <p>○外国人児童生徒と保護者のための進路ガイダンス松阪の開催 松阪地区の高等学校(松阪商業高校他6校)及びみえ夢学園高校による学校紹介や個別相談及びハローワーク松阪による就職に関する説明等を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>開催日時:平成23年9月4日(日)13時30分～16時30分 参加者数:106名(児童生徒28人・保護者等27人・その他教職員等51人)</li> </ul> <p>○就学状況調査の実施 小中学校在籍児童生徒名簿に記載のない就学年齢に達している外国人登録者を対象に調査を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調査期間:2月～3月 調査対象者数:79人(61世帯)</li> <li>調査結果:不就学2人[小学校(いっぽ教室通級)へ就学] 帰国・転居70人</li> </ul>						
改善案・方向性		初期の適応支援及び日本語指導については取組みが定着してきたが、初来日の児童生徒の増加が続いていることから、引き続き、外国人児童生徒の在籍状況に応じた支援の充実を図るとともに進路保障につながる各教科の理解を深める取組みの充実を図る。						

## 評価シート

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】			番号	12			
事業名		育ちサポート推進事業			↑ 達成度	重要度 →			
						A			★
担当課		育ちサポート室	事業年度	平成22年度～平成24年度		B			
						C			
予算・決算		平成22年度決算	11,983 千円 <small>※8ヶ月分 (8月)</small>	平成23年度決算	15,674 千円	平成24年度予算	16,193 千円		
事業目的		<p>社会が急激に変化する中で、子どもたちが安心して成長できる、また、子どもたちを安心して育てられる環境の整備を目的とする。特に、今日、子どもの発達に関する支援が大きな課題となっており、子どもたちの育ちを途切れなく支援していける、市民にとって利用のしやすい相談支援体制の実現をめざす。</p>							
事業内容		<p>子どもの発達に関する相談の窓口となり、子ども本人や保護者、保育・教育関係者に対して、発達障がい相談や助言・検査等の支援、障がい児の就学就園の支援を3部局（保健・福祉・教育）連携のもとに行う。また、ネットワーク会議やケース会議など、関係機関との連携をより密にスムーズに行い支援を実施する。</p>							
複数年にわたる事業の場合進捗度等		<p>平成22年8月に育ちサポート室を開設し事業を実施する。その後、業務内容の見直しや福祉部・保健部または教育委員会内での連携の方法を検討し改善を進めてきたところであるが、平成24年度には福祉部内にも3部局の連携の中で家庭支援や福祉サービスを提供していく、家庭児童支援課が設置されることになり、より関連部署との連携方法・業務分担について検討と改善を進めていくことが必要となってきた。</p>							
検討課題		<p>新しい組織であり、市民への周知がまだまだ必要である。また、上記のように福祉部内に家庭児童支援課が設置されることもあり、関連部署との業務分担を明確にし、スムーズな連携を行うことが、市民のニーズに応えていくことにつながる。</p> <p>業務の性格上、個人情報を取り扱うことが多くその保護と共有・活用については、それぞれケースごとに違いもあり、十分な配慮と慎重さが必要である。</p> <p>また、今後、ますます相談や検査等の支援ニーズの増加が想定される中で、相談体制の効率化を含め、より一層の充実が課題となってきた。</p>							
当該年度の取組		<p>子どもの発達に関する相談窓口、関係機関へのつなぎと連携・コーディネート、発達障害に関する相談・検査、幼児健康診査及びその関連事業への連携、福祉相談等の福祉事業との連携、障がい児就学支援委員会・障がい児保育支援委員会の事務局、発達に関する個人情報の保管共有などの業務を実施した。</p> <p>特に、本年度は、巡回相談のシステムの改善や室内の毎朝の情報交流、カルテ・相談票の改良、就学支援委員会についての園・校・保護者等への周知方法の改善等を実施した。また、ホームページの改善やパンフレットの増刷・配布先の拡大、行政チャンネル文字放送の開始等により、育ちサポート室の一層の周知も図った。</p>							
改善案・方向性		<p>発達障害については、まだまだ社会の理解や支援の体制が十分であるとはいえない。保護者によっても発達障害に対する理解、子どもの受け留め方に違いが大きく、一人ひとりに応じた丁寧な対応が求められている。特に子どもの状態や子どもを取り巻く環境等が多岐多様となっており、子ども一人ひとりの教育的ニーズを把握し、持てる力を高め、生活や学習上の困難さを改善または克服するためには、子どもの観察や情報収集をより充実させ、子ども一人ひとりの理解・子どもを取り巻く環境をできる限り詳しく把握し、支援を行うことが大切である。</p> <p>また、保護者や家庭そのものに福祉サービス等の支援が欠かせないケースも多くなってきており、保健部・福祉部または児童相談所等の外部関係機関との連携がますます不可欠となってきた。</p> <p>同時に、ますます増加する相談や検査等の支援ニーズに対しては、相談員の確保や受付方法の変更、相談枠・訪問時間の検討等を進め、より効率的・効果的支援方法を探っていく必要がある。</p>							

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】			番号		13	
					↑達成度		重要度 →	
事業名	学校給食単独調理場備品等整備事業			A			★	
担当課	給食管理課	事業年度	平成23年度	B				
				C				
予算・決算	平成22年度決算	9,299 千円	平成23年度決算	7,453 千円	平成24年度予算	C	B	A
事業目的	学校給食単独調理場における作業能率及び衛生管理の向上を図るために、学校給食用備品等の整備を行う。							
事業内容	給食施設の衛生管理基準に沿った施設の改善及び給食備品・什器の更新を図る。 ＜対象となる調理場＞ 本庁管内24小学校(単独調理場)							
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題	各調理場において、備品・設備の老朽化及び、衛生管理基準の見直し等もあり、安全・安心な給食の運営には、基準に見合った備品等を整備することが必要であるが、高価なため、年次計画で整備しなければならない。							
当該年度の取組	各単独調理場において衛生管理基準に基づいた給食用備品等を購入した。 ＜主な購入物品＞ ・真空冷却機(松尾小)、消毒保管庫(第四小)の設置 ・シンク(第一小、第三小、射和小)の設置							
改善案・方向性	「安全・安心でおいしい給食」を安定的に提供するため、備品等の整備は必要不可欠であるが、近年、老朽化に伴う修繕費も増加傾向となっている。年々、求められる衛生管理水準も高まっているとともに、作業能率向上等の目的においても重要な事業であり、適正な優先順位を考慮した厨房備品の整備をしなければならない。							

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】				番号		14	
						↑達成度		重要度 →	
事業名	学校給食センター備品等整備事業				A			★	
担当課	給食管理課	事業年度	平成23年度		B				
					C				
予算・決算	平成22年度決算	8,378 千円	平成23年度決算	3,843 千円	平成24年度予算	C	B	A	
事業目的	学校給食センターにおける作業能率及び衛生管理の向上を図るために、学校給食用備品等の整備を行う。								
事業内容	衛生管理基準に沿った給食備品・機器等の更新を図る。 ＜対象となる学校給食センター＞ 学校給食センターベルランチ 嬉野学校給食センター 三雲学校給食センター 飯南学校給食センター 飯高学校給食センター(宮前・森調理場)								
複数年にわたる事業の場合進捗度等									
検討課題	各給食センターにおいて、備品・設備の老朽化及び、衛生管理基準の見直し等もあり、安全・安心な給食の運営には、基準に見合った備品等を整備することが必要であるが、高価なため、年次計画で整備しなければならない。								
当該年度の取組	各学校給食センターにおいて衛生管理基準に基づいた給食用備品等を購入した。 ＜主な購入物品＞ ・献立栄養計算用パソコンソフト ・給食食材用冷蔵庫(嬉野)の設置								
改善案・方向性	「安全・安心でおいしい給食」を安定的に提供するため、備品等の整備は必要不可欠であるが、近年、老朽化に伴う修繕費も増加傾向となっている。年々、求められる衛生管理水準も高まっているとともに、作業能率向上等の目的においても重要な事業であり、適正な優先順位を考慮した厨房備品の整備をしなければならない。								

点検・評価対象テーマ		【 市民による、市民のための生涯教育の推進 】			番号	15		
					↑ 達成度	重要度 →		
事業名	人権教育地域促進事業					A		
担当課	人権まなび課	事業年度	平成19年度～平成24年度			B		★
						C		
予算・決算	平成22年度決算	2,414 千円	平成23年度決算	3,521 千円	平成24年度予算	C	B	A
事業目的	<p>・地域に密着したきめ細かな人権教育を推進するため、各教育事務所管内の人権教育推進組織へ人権講演会、研修会等の事業を委託する。また、市民自ら人権学習に取り組めるよう全国的な人権教育研究大会や研究集会への参加者を募集し、人権学習機会の提供を行う。</p>							
事業内容	<p>・人権のつどい・人権講演会・人権講座の開催等の事業委託          ・人権教育研究大会等への市民参加の機会提供          (全国在日外国人生徒交流会、地域人権問題全国集会、部落解放全国研究集会等)</p>							
複数年にわたる事業の場合進捗度等	<p>・継続的な地域組織への委託事業を通し、きめ細かな人権教育活動を推進した。平成23年度は、人権学習推進事業で実施してきた各地域の人権講演会等を委託事業に組替え、地域組織による事業の充実を図った。          ・人権教育に関する研究大会、研究集会等を通し、社会状況の背景が変化していく中でも、さまざまな人権問題への取り組みや研究の実践を学ぶことで、参加者の人権意識の高揚を図ることができた。</p>							
検討課題	各地域組織間での交流、連携による人権教育活動の推進。							
当該年度の取組	<p>・人権教育の事業委託          委託契約先及び実施内容          ①嬉野人権教育研究会(人権のつどいうれしの・人権啓発映画会等)          ②三雲地域人権教育推進協議会(人権講演会・フィールドワーク等)          ③いいなん人権教育研究協議会(人権講演会・人権教育講座等)          ④飯高町人権教育研究協議会(人権トーク&amp;コンサート・人権講演会等)          ⑤松阪市人権教育研究会(人権講演会・子どもたちの人権展等)          ○人権講座・・・2回：参加者50人          ○人権講演会・・・10回：1,509人          ○人権啓発映画会・・・1回：280人          ・人権教育研究大会への市民の参加          参加実績 全国在日外国人生徒交流会等5大会へ計14人参加</p>							
改善案・方向性	社会的な背景の変化等を見極めながら状況に応じた人権講演会等の実施により、住民が主体となって人権教育を推進していける体制づくりを支援していく。							

点検・評価対象テーマ		【 市民による、市民のための生涯教育の推進 】			番号	16			
事業名		新成人のつどい開催事業			↑ 達成度 ↓	重要度 →			
担当課		いきがい学習課	事業年度	平成23年度		A			★
予算・決算		平成22年度決算	455 千円	平成23年度決算		B			
						C	B	A	
				平成24年度予算				517 千円	
事業目的		<p>新成人を祝い、一人ひとりが心に残る新成人のつどいを開催する。          新たに大人社会の一員となる新成人が、これまで育んでくれた人々や社会に感謝し、社会的責任を自覚して、大人としての行動をとるためのきっかけの場として、また未来に向かってたくましく生きていこうとする彼らを、広く市民が祝い励ます場として開催する。</p>							
事業内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新成人を中心としたメンバーが実行委員会を組織し、成人式全般の企画や運営、PRポスター作成などに、9月下旬から取り組む。</li> <li>・新成人のつどいは、実行委員の司会進行のもと、オープニングセレモニー、市長祝辞、新成人謝辞、恩師のビデオメッセージ等を実施する。</li> </ul>							
複数年にわたる事業の場合進捗度等									
検討課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新成人による実行委員の応募が毎年少なく、学校の連携・協力が不可欠となっている。</li> <li>・会場での新成人のマナーの問題等。</li> </ul>							
当該年度の取組		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実行委員会：5回開催</li> <li>・日 時：平成24年1月8日（日）午前10時～午前11時30分</li> <li>・場 所：松阪市民文化会館</li> <li>・対 象：平成3年4月2日～平成4年4月1日までに生まれた方</li> <li>・参加人数：1,302人（住民登録者数 1,614人）住民登録者数に対して 80.7%</li> </ul>							
改善案・方向性		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新成人が次年度の新成人に対して、実行委員を呼びかけるなど、実行委員会の継続性の仕組みづくりの検討。</li> <li>・実行委員会の組織強化により、成人式の静粛化を高めていく。</li> </ul>							



点検・評価対象テーマ		【 市民による、市民のための生涯教育の推進 】			番号	17		
事業名	青少年健全育成事業				↑ 達成度	重要度 →		
						A		★
担当課	いきがい学習課	事業年度	平成23年度			B		
						C		
予算・決算		平成22年度決算	4,573 千円	平成23年度決算	6,098 千円	平成24年度予算	6,381 千円	
事業目的	<p>松阪の将来を担う青少年の健全育成を図るため、次代の担い手である青少年が心身ともに健全に育つ環境づくりをめざし、健全育成活動の推進と環境整備を行う。</p>							
事業内容	<p>・松阪市全体として青少年健全育成を考えるために、各地区健全育成会や子ども会連合会や自治会連合会などで構成する「松阪市青少年育成市民会議」に業務委託を行い、講演会、研修会、親子ふれあい事業、パトロール、看板設置、広報紙発行、啓発活動等を実施する。          ・小中学校単位の22地区の青少年健全育成会に対して、各地区パトロール・各地区健全育成会講演会・クリーン作戦や啓発看板設置等の環境浄化活動等の事業に対して、業務委託を締結して青少年の健全育成の推進を図る。</p>							
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題	<p>・青少年健全育成事業内容の精査と事務の簡素化。          ・各地区の健全育成会と住民協議会との事業連携や組織のあり方</p>							
当該年度の取組	<p>・青少年育成のつどい講演会の開催          平成23年12月15日 松阪コミュニティ文化センター          ・家庭教育講演会・子ども体験教室等の開催          ・市内22育成会にそれぞれの地域にあった健全育成活動を業務委託          ・松阪市青少年育成市民会議各支部の活動を通じて健全育成活動やあいさつ運動を推進した。</p>							
改善案・方向性	<p>子どもの健全育成のために今後も事業を推進していくが、関係団体や住民協議会などと連携・協議をしながら、当事業の事業精査、事務改善を図っていく。</p>							

点検・評価対象テーマ		【 市民による、市民のための生涯教育の推進 】			番号	18			
事業名		こどもまつり大会事業			↑ 達成度 ↓	重要度 →			
担当課		いきがい学習課	事業年度	平成23年度		A			★
予算・決算		平成22年度決算	1,634 千円	平成23年度決算		B			
						C	B	A	
事業目的		創作や遊びを通じて、家族や友だちと一日楽しく過ごし、郷土の将来を担う子どもたちの健全育成を図る。							
事業内容		中部台運動公園芝生広場(雨天時:総合体育館)において、子どもたちの楽器演奏や踊り、各種バザー(焼きそば・フライドポテト・かき氷・うどん等)、粘土あそび、木工教室やもちつき体験、サッカーゲームや白バイ展示等、ステージ・たべる・あそぶの各ブースを関係機関・団体の協力を得て開催する。							
複数年にわたる事業の場合進捗度等									
検討課題		<p>参加団体による実行委員会を組織し、その中で部門別責任者を設け、各部門の企画や取りまとめを主体的に実施しつつあるが、参加団体はすべてボランティアであるため、全体のとりまとめや運営については、事務局である当課が行っており、相当数の行政職員の動員が必要となっている。</p> <p>規模が年々大きくなりつつあり、コスト削減が厳しく、また職員の負担を減らすのが難しい状況にある。</p>							
当該年度の取組		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実行委員会:5回開催</li> <li>・開催日:平成23年4月24日</li> <li>・出展ブース数 ステージ3団体、たべるブース7団体、つくるブース8団体、あそぶブース14団体</li> <li>・参加者数:22,000人</li> </ul>							
改善案・方向性		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実行委員会の主体性を強化し、出展内容の充実と精査を行なうことで、事務の軽減とコストの削減を図っていく。</li> <li>・「まつり」というものの性格も考え、「子どもたちに遊ぶ場、機会を提供し、みんなで楽しんでもらう。」という方向性はそのままいく。会場キャパシティの関係上、来場者は駐車場を基に判断した場合、許容量に近い状態であるのが、継続して参加者の来場に向けた広報・体制づくりに力を注ぎ、「まつり」の質を高めるように実行委員と一緒に進めていきたい。</li> </ul>							

点検・評価対象テーマ		【 市民による、市民のための生涯教育の推進 】			番号	19																																										
事業名	図書館管理運営事業				↑ 達成度	重要度 →																																										
						A		★																																								
担当課	いきがい学習課	事業年度	平成21年度～平成25年度			B																																										
						C																																										
予算・決算		平成22年度決算	123,258 千円	平成23年度決算	131,819 千円	平成24年度予算	123,181 千円																																									
事業目的		図書館施設(松阪図書館・嬉野図書館)を適法・適正に管理し、施設利用者のサービスの向上を図る。																																														
事業内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度情報化社会の多様なニーズに対応するため、蔵書等の充実を図る。</li> <li>・松阪市子ども読書活動推進計画により、ブックスタート事業やボランティアの協力を得て、「絵本の読み聞かせ」や「おはなし会」などの特別事業を開催し、子どもの読書活動を推進する。</li> <li>・「光をそそぐ交付金」を活用して、司書の雇用と児童書の購入で学校図書室の読書環境を整備する。</li> </ul>																																														
複数年にわたる事業の場合進捗度等		指定管理者制度の導入により、平成21年度から25年度までの5年間を、(株)図書館流通センター(TRC)に管理業務委託をし、経費面等での図書館業務の効率化と蔵書の充実や子育て支援・子どもの読書活動の取り組みとして、特別事業を積極的に開催することで、住民サービスの向上に関して順調に達成しつつある。																																														
検討課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・来館者のマナー違反に対する対応</li> <li>・施設の経年劣化等による維持管理経費</li> </ul>																																														
当該年度の取組		<p>○平成23年度 各図書館(室)における利用状況等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>貸出冊数(冊)</th> <th>利用者数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>松阪図書館</td> <td>544,834</td> <td>117,885</td> </tr> <tr> <td>嬉野図書館</td> <td>259,452</td> <td>57,047</td> </tr> <tr> <td>三雲図書室</td> <td>14,940</td> <td>4,334</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>819,226</td> <td>179,266</td> </tr> </tbody> </table> <p>○平成23年度各図書館(室)における図書購入内訳</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>一般図書(冊)</th> <th>児童図書(冊)</th> <th>紙芝居(冊)</th> <th>計(冊)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>松阪図書館</td> <td>7,823</td> <td>1,842</td> <td>71</td> <td>9,736</td> </tr> <tr> <td>嬉野図書館</td> <td>3,847</td> <td>1,135</td> <td>42</td> <td>5,024</td> </tr> <tr> <td>三雲図書室</td> <td>923</td> <td>542</td> <td>25</td> <td>1,490</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>12,593</td> <td>3,519</td> <td>138</td> <td>16,250</td> </tr> </tbody> </table>								貸出冊数(冊)	利用者数(人)	松阪図書館	544,834	117,885	嬉野図書館	259,452	57,047	三雲図書室	14,940	4,334	計	819,226	179,266		一般図書(冊)	児童図書(冊)	紙芝居(冊)	計(冊)	松阪図書館	7,823	1,842	71	9,736	嬉野図書館	3,847	1,135	42	5,024	三雲図書室	923	542	25	1,490	計	12,593	3,519	138	16,250
	貸出冊数(冊)	利用者数(人)																																														
松阪図書館	544,834	117,885																																														
嬉野図書館	259,452	57,047																																														
三雲図書室	14,940	4,334																																														
計	819,226	179,266																																														
	一般図書(冊)	児童図書(冊)	紙芝居(冊)	計(冊)																																												
松阪図書館	7,823	1,842	71	9,736																																												
嬉野図書館	3,847	1,135	42	5,024																																												
三雲図書室	923	542	25	1,490																																												
計	12,593	3,519	138	16,250																																												
改善案・方向性		図書館利用者の幅広い要求に対応できるスタッフ研修の充実や、利用者マナー向上のための取り組みを継続的に実施していくことと、施設の快適な維持管理を維持し、併せて利用者アンケートや図書館への便り箱等の活用で、利用者ニーズの把握に努め、図書館サービスの拡充をめざしていく。																																														

点検・評価対象テーマ		【 市民による、市民のための生涯教育の推進 】			番号	20		
事業名		生涯学習振興事業			↑ 達成度	重要度 →		
担当課		いきがい学習課	事業年度	平成23年度		A		★
予算・決算		平成22年度決算	13,570 千円	平成23年度決算		13,902 千円	平成24年度予算	14,871 千円
事業目的		住民の教養の向上、健康の増進等を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的として、定期講座の開設や講習会、講演会等を開催し、これらの公民館事業を通じて豊かな学習機会の提供を行なう。						
事業内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>・45公民館で、地域課題や住民ニーズに呼応した高齢者学級や女性学級等の連続講座や各種体験教室、伝承文化事業等を開催する。</li> <li>・公民館事業たよりを毎月全戸配布するとともに、全地区公民館へ対しても他館のたよりを配布し、市民への周知と、公民館相互の情報共有を図る。</li> <li>・市ホームページに「公民館趣味サークル概要」を掲載し、市民への周知を図る。</li> </ul>						
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題		・住民協議会との関わりのなかで、生涯学習・社会教育の継続性の仕組みづくりや今後の公民館のあり方について、検討協議を進めていく必要がある。						
当該年度の取組		<p>公民館において、住民ニーズ等に応じた学習機会を提供するとともに、多様な教育環境の中で地域社会に参画できる人材の育成をめざして、各管内で講座を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●生涯学習振興事業(松阪)26館 ・講座数 319講座 ・開催日数 599日 ・受講者延数 18,151名</li> <li>●生涯学習振興事業(嬉野)7館 ・講座数 149講座 ・開催日数 531日 ・受講者延数 7,452名</li> <li>●生涯学習振興事業(三雲)5館 ・講座数 138講座 ・開催日数 483日 ・受講者延数 6,091名</li> <li>●生涯学習振興事業(飯南)1館 ・講座数 45講座 ・開催日数 623日 ・受講者延数 6,310名</li> <li>●生涯学習振興事業(飯高)6館 ・講座数 56講座 ・開催日数 227日 ・受講者延数 2,884名</li> </ul>						
改善案・方向性		地域課題や住民ニーズに呼応した生涯学習振興事業の推進とともに、生涯学習の成果を社会に参画できる人材の育成につなげていく。						

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】			番号	21		
事業名	市美術展覧会開催事業				↑ 達成度	重要度 →		
						A		★
						B		
						C		
担当課	文化課	事業年度	平成23年度			C	B	A
予算・決算	平成22年度決算	2,217 千円	平成23年度決算	2,143 千円	平成24年度予算	2,542 千円		
事業目的	<p>松阪地域の美術文化の祭典として、住民の美術創作意欲を高めるとともに、美術に対する理解を深め、松阪地域の美術水準の向上を図る。</p>							
事業内容	<p>松阪市で唯一の公的な美術展覧会として、「絵画」「彫刻・工芸」「写真」「書道」の4部門で開催する。</p>							
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題	<p>昭和35年より開催し、平成23年度は第52回を迎えたところであるが、市民公募の運営委員を中心に、専門家や芸術家の意見を取り入れ、運営のあり方などを検討する必要がある。</p>							
当該年度 の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運営委員会の開催</li> <li>○審査委員の決定</li> <li>○開催要項、ポスターの作成及び配布</li> <li>○作品募集</li> <li>○審査</li> <li>○審査結果の発表</li> <li>○展覧会の開催</li> <li>○入賞者の表彰</li> </ul>							
改善案・ 方向性	<p>今後も審査方法などを運営委員会で協議し、出品しやすい環境づくりに努めていきたい。</p>							

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】			番号	22		
事業名	歴史的建造物公開事業				↑ 達成度	重要度 →		
						A		★
						B		
						C		
担当課	文化課	事業年度	平成23年度			C	B	A
予算・決算	平成22年度決算	2,691 千円	平成23年度決算	3,017 千円	平成24年度予算	3,927 千円		
事業目的	殿町の重要文化財「御城番屋敷」を一般公開することにより、市民や市外からの来訪者に歴史的遺産の保全や活用をアピールする。							
事業内容	重要文化財「御城番屋敷」の一戸を所有者から借り受け、一般公開を行う。							
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題	全国に誇れる題材であることから、積極的に情報発信をしていく必要がある。							
当該年度の取組	重要文化財「御城番屋敷」の一戸を所有者から借り受け、一般公開を行った。							
改善案・方向性	国史跡松坂城跡、重要文化財御城番屋敷、平成24年10月10日公開予定の武家屋敷原田二郎旧宅を公開することによって、武家屋敷ゾーンとして歴史ある区域として啓発公開していきたい。							

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】			番号	23		
事業名		はにわ館開館10周年記念事業			↑ 達成度	重要度 →		
担当課		文化課	事業年度	平成23年度～平成24年度		A		★
予算・決算		平成22年度決算		平成23年度決算		1,198 千円	平成24年度予算	2,750 千円
							C	B
事業目的		平成25年3月に開館10周年を迎える「はにわ館」を、より一層全国に情報発信するため、特別記念展を開催する。						
事業内容		平成24年度に、はにわ館が開館10周年を迎えることから、これを記念して「松坂城」と「蒲生氏郷」に関する特別展を開催する。						
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題		10周年という節目の年を「船形埴輪 国宝指定推進行動年」と位置づけ、特別記念展の開催及び「出会い・発見・学び」の施設としてのソフト面のさらなる充実を基軸とした取り組みを推進していく必要がある。						
当該年度の取組		はにわ館特別展「氏郷の遺したもの」を開催し、松坂開府の祖・蒲生氏郷ゆかりの文書類、同時代資料、関連資料等をもとに、戦国武将蒲生氏郷と氏郷による松坂の城づくり・町づくりについて紹介した。						
改善案・方向性		はにわ館特別展「氏郷の遺したもの」を開催し、松坂開府の祖・蒲生氏郷ゆかりの文書類、同時代資料、関連資料等をもとに、戦国武将蒲生氏郷と氏郷による松坂の城づくり・町づくりについて紹介した。						

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】			番号	24		
事業名		松坂城跡保存管理計画策定事業			↑ 達成度	重要度 →		
担当課		文化課	事業年度	平成21年度～平成23年度		A		★
予算・決算		平成22年度決算	785 千円	平成23年度決算		7,601 千円	平成24年度予算	
							C	B
事業目的	史跡松坂城跡の価値を再確認し、今後のあるべき姿について検討する。							
事業内容	松坂城跡の今後の保存と管理の方法を専門家、市の関係部局で検討し、保存管理計画を策定する。							
複数年にわたる事業の場合進捗度等	3年計画の最終年であり、順調に達成した。							
検討課題	松坂城跡が市民の歴史的文化的シンボルでありつづけるため、松坂城跡を市民全体で守り、愛着をもって後世に引き継がれるよう、松坂城跡を大切にしていこう、という市民の活動とともに歩んでいくことが課題である。							
当該年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○松坂城跡保存管理計画策定委員会の開催(3回)</li> <li>○松坂城跡保存管理計画策定作業部会の開催(6回)</li> </ul>							
改善案・方向性	今後、松坂城跡保存管理計画に基づき、整備計画を検討していく。							



点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】			番号	25		
事業名		文化財保存整備事業			↑ 達成度	重要度 →		
担当課		文化課	事業年度	平成23年度		A		★
予算・決算		平成22年度決算	27,724 千円	平成23年度決算		4,314 千円	平成24年度予算	682 千円
事業目的		国・県・市指定の文化財の適正な保存管理と活用を図るため、市内に所在する指定文化財の修理に対して、補助金を交付することにより、本市の歴史・文化を理解し、地域の特性を考えるために欠くことのできない大切な文化財を後世につなげていく。						
事業内容		貴重な文化財を末永く保存するため、指定文化財の修理に要する費用について、所有者に対して補助金を交付するもので、本年度は、県指定龍泉寺三門の保存修理に対して、補助金を交付する。						
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題		長期的な展望をもって、計画的に進めていく必要がある。						
当該年度の取組		県指定龍泉寺三門の保存修理に対して、補助金を交付した。						
改善案・方向性		今後も、国・県・市指定文化財の保存修理について、文化財保護の観点から規定の補助金を交付していきたい。						

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】				番号	26		
事業名	原田二郎旧宅保存整備活用事業					↑ 達成度	重要度 →		
							A		★
担当課	文化課	事業年度	平成22年度～平成24年度		B				
予算・決算	平成22年度決算	30,492 千円	平成23年度決算	29,922 千円	平成24年度予算	C	B	A	
	事業目的	<p>殿町の武家屋敷の楨垣が残る景観保全地域において、財団法人原田積善会から江戸時代末の武家屋敷の建物(原田二郎旧宅)と敷地の寄贈を受けたため、武家屋敷の復元を主とし、原田二郎を顕彰する施設として整備し、公開・活用を図っていく。</p>							
事業内容	<p>武家屋敷の復元を主とし、原田二郎を顕彰する施設として整備する。</p>								
複数年にわたる事業の場合進捗度等	<p>3年計画の2年目であるが、順調に進んだ。</p>								
検討課題	<p>武家屋敷という面と松阪の偉人・原田二郎の生家という面を、市民及び来訪者にいかに分かりやすく見せるのかが課題である。</p>								
当該年度の取組	<p>建物半解体修理工事及び庭園の不要樹木伐採を行った。</p>								
改善案・方向性	<p>平成23年12月に松阪市まちなか歴史文化活用プロジェクト委員会から「松阪まちなか歴史的文化遺産保存・活用プラン」の提言書が出されたが、その中で原田二郎旧宅の活用方法として、お休み処としての機能も持たせたいとあり、今後武家屋敷散策の途中でのお休み処の機能も持たせていきたい。</p>								

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】			番号	27		
事業名	長谷川家文書調査事業				↑ 達成度	重要度 →		
						A		★
担当課	文化課	事業年度	平成20年度～平成24年度			B		
						C		
予算・決算		平成22年度決算	3,006 千円	平成23年度決算	3,016 千円	平成24年度予算	5,100 千円	
事業目的	<p>現存する伊勢商人最大規模の住居・土蔵を今に残す長谷川家に伝わる約2万5千点にのぼる文書資料を目録化・資料化することにより、郷土資料の保護に努める。</p>							
事業内容	<p>長谷川家に伝わる約2万5千点にのぼる文書資料を目録化・資料化する。</p>							
複数年にわたる事業の場合進捗度等	<p>5年計画の4年目であり、順調に進んでいる。</p>							
検討課題	<p>文書資料の全体把握が困難な状況であり、次から次へ新たな資料が出てくることから、調査期間の延長を検討する必要があるが、国庫補助事業期間が5年(当初、事業期間3年間で5年間に延長した経緯がある)であるため、予定通り平成24年度で目録を刊行することとする。</p>							
当該年度の取組	<p>長谷川家において21回の文書調査を行い、文書約19,000点、書籍60箱分を終了した。</p>							
改善案・方向性	<p>事業最終年度の平成24年度は、引き続き調査を行い、目録を刊行する。 また、平成25年度以降も2次調査として国庫補助事業で行えないか、国・県と協議し、調整していきたい。</p>							

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】		番号	28		
事業名	まちなか歴史文化活用プロジェクト事業			↑ 達成度	重要度 →		
					A		★
担当課	文化課	事業年度	平成23年度		B		
					C		
予算・決算	平成22年度決算		平成23年度決算	529 千円	平成24年度予算		
事業目的	<p>殿町・魚町・本町界隈は、松阪市の歴史文化が蓄積されたところであり、今もなおその面影を残し、歴史文化を活かしたまちづくりが求められている。</p>						
事業内容	<p>殿町・魚町・本町の歴史文化を活かしたまちづくりを進める中で、広く市民や専門家の意見を聴きながら活用方法等の検討を行う。</p>						
複数年にわたる事業の場合進捗度等							
検討課題	<p>歴史的文化遺産を活用した新たなまちづくりを進めていくうえで、ワークショップ等を活用し、専門家の意見を聞きつつ、市民とともに実行可能で具体的な実施計画を策定していく必要がある。</p>						
当該年度の取組	<p>松阪市まちなか歴史文化活用プロジェクト委員会を立ち上げ、歴史文化の活用方法等の検討を行った。その中で「松阪まちなか歴史的文化遺産保存・活用プラン」の提言をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○松阪市まちなか歴史文化活用プロジェクト委員会の開催(6回)</li> <li>○松阪まちなか歴史文化活用フォーラムの開催(1回)</li> </ul>						
改善案・方向性	<p>「松阪まちなか歴史的文化遺産保存・活用プラン」の提言書を受けて、活用方法を具体化していく。</p>						

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】			番号	29		
事業名		松浦武四郎誕生地保存整備活用検討事業			↑ 達成度	重要度 →		
担当課		文化課	事業年度	平成21年度～平成24年度		A		★
予算・決算		平成22年度決算	507 千円	平成23年度決算		5,222 千円	平成24年度予算	906 千円
							C	B
事業目的	郷土の偉人である松浦武四郎の功績を後世に伝えるため、重要文化財に指定された資料から武四郎を知り、学ぶことができる松浦武四郎記念館とは別に、武四郎の育った環境や松浦家の営み、伊勢街道の文化を感じることができる場所として、市の史跡に指定されている松浦武四郎誕生地を保存整備・活用する。							
事業内容	文化財建造物の専門家や地域住民らで構成する松浦武四郎誕生地検討委員会を組織し、史跡の具代表的な整備内容や活用方法を検討している。							
複数年にわたる事業の場合進捗度等	ほぼ順調に進んでおり、平成24年度は市民への周知と理解を求めることに努め、平成25年度から整備にかかることができるよう進めている。							
検討課題	史跡の保存・活用にあたっては、市民の理解と地域との連携が必要であり、地域の協力のもとに史跡を適切に維持・管理し、文化財として貴重な建物をどのように整備し、公開・活用していくかが課題である。							
当該年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○松浦武四郎誕生地整備検討委員会の開催</li> <li>○史跡の維持・管理に関する業務の委託</li> <li>○史跡の現状調査の委託</li> <li>○消火器4本の購入</li> </ul>							
改善案・方向性	貴重な建物をどのように残し、どのように活用していくかを、引き続いて委員会で検討するとともに、平成24年度開催予定のシンポジウムや意見交換会で得られる市民の意見やアイデアも参考にし、史跡の文化財としての価値を損なうことがないよう注意しながら、保存・活用に必要な整備を進める。							

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】		番号	30			
事業名		文化センターのあり方検討委員会事業		↑ 達成度	重要度 →			
担当課		文化課	事業年度		平成23年度	A		★
予算・決算		平成22年度決算	平成23年度決算		410 千円	平成24年度予算		
事業目的		<p>松阪市文化センターの自主事業及び施設のあり方の現状分析を行うとともに、今後の課題や方向性について検討をする。</p> <p>※ 松阪市文化センターとは、市民文化会館・コミュニティ文化センター・嬉野ふるさと会館の3館である。</p>						
事業内容		<p>今後の文化芸術振興の方向を踏まえつつ、松阪市文化センターの自主事業及び施設のあり方について、検討及び審議を行う。</p>						
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題		<p>松阪市文化センターの自主事業及び施設のあり方について提言書をいただいたが、今後の自主事業及び施設管理・運営のあり方について、適正な人材の確保や計画的な施設整備の実施が課題である。</p>						
当該年度の取組		<p>文化センターのあり方検討委員会を年6回開催した。</p>						
改善案・方向性		<p>「松阪市文化センターの自主事業及び施設のあり方について」の提言書に基づき、松阪市文化センターの自主事業及び経営を展開し、次の世代に誇ることのできる、松阪らしい文化芸術が息づく社会づくりを目指していく。</p>						

点検・評価対象テーマ		【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】			番号	31			
事業名		市体育協会加盟団体育成強化補助金			↑ 達成度 ↓	重要度 →			
担当課		スポーツ振興課	事業年度	平成23年度		A		★	
予算・決算		平成22年度決算	1,200 千円	平成23年度決算		B			
						C			
						C	B	A	
事業目的		<p>松阪市体育協会加盟団体の育成強化を図ることにより、競技活動の充実と活性化を通じて、本市のスポーツの健全な普及発展を図り、市民の健康増進や体力向上に寄与する。 (昭和29年:松阪市体育協会設立)</p>							
事業内容		<p>団体の運営並びに事業実施にかかる補助経費 1,400千円 【内訳】 各加盟団体活動補助(27協会) 405千円 会長杯争奪競技大会等開催補助 350千円 指導者講習会・研修会等 645千円</p>							
複数年にわたる事業の場合進捗度等									
検討課題		<p>この補助金は、競技技術の向上や市民がスポーツに親しむ機会の増加につながっており、本市のスポーツ振興に寄与している。しかし、個人で楽しむスポーツや競技人口の少ないスポーツの組織化は困難であり、その対応が課題である。また、体育協会加盟団体の育成強化を図るためには、協会の自立性を高める必要があり、市の支援方法を含めて、協会独自の財源確保や職員の配置などを検討しなければならない。</p>							
当該年度の取組		<p>体育会長杯開催、全国大会等開催補助、講演会・指導者研修会の開催</p>							
改善案・方向性		<p>引き続き体育協会の自主性、独立性を基本とした協力体制の構築を図って行きたい。加盟団体の強化発展と相互融和や、市民の体力向上並びにスポーツの普及促進・強化を図るため、補助を継続する。</p>							

点検・評価対象テーマ		【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】			番号	32		
事業名		全国大会等出場派遣支援事業			↑ 達成度	重要度 →		
担当課		スポーツ振興課	事業年度	平成23年度		A		★
予算・決算		平成22年度決算	7,620 千円	平成23年度決算		6,586 千円	平成24年度予算	6,500 千円
事業目的	市民のスポーツに対する関心を深め、日頃のスポーツ活動の成果として全国大会などに出場する市民等に激励金を支給することにより本市のスポーツの振興を図る。そのことが選手たちの目標や励みにもなり、本市のスポーツ振興に寄与する。							
事業内容	<p>○激励金の交付 予選を勝ち抜いて全国大会に出場する選手等に対し、1人につき10,000円の激励金を交付する。（国際大会は50,000円、オリンピックは100,000円）</p> <p>○勲功章の授与 全国大会、国際大会で3位以内に入賞した選手等に勲功賞を授与する。</p>							
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題	この事業は、スポーツ振興基金を財源としているが、近年、全国大会の出場者が増えていることなどから、基金が減少してきている。基金を活用したこの事業を今後も維持していくためには、制度の効率的な運用が必要である。							
当該年度の取組	<p>平成23年度実績</p> <p>○激励金の交付 40団体397人、個人260人 計657人</p> <p>○勲功章の授与 3団体22人、個人33人 計55人</p>							
改善案・方向性	平成23年度に交付対象者や金額などの制度の研究協議をおこない24年度から改正した。今後は制度の効率的な運用を図りながら、市民の競技スポーツに対する意識の高揚を図って行きたい。							



点検・評価対象テーマ		【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】			番号	33			
事業名		スポーツ大会等運営事業			↑ 達成度	重要度 →			
担当課		スポーツ振興課	事業年度	平成23年度		A		★	
予算・決算		平成22年度決算	2,350 千円	平成23年度決算		1,969 千円	平成24年度予算	1,672 千円	
事業目的		生涯を通じて健康で充実した生活を営むことができるよう、市民により多くのスポーツを楽しむ機会を提供し、健康で豊かな生活を送ることを目的とする。また、合わせて地域の特色あるスポーツ事業を実施し、地区住民のスポーツに参加する機会を増やす。							
事業内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種市長杯争奪大会(春季・秋季家庭婦人バレーボール大会、ソフトバレーボール大会、グラウンドゴルフ大会、卓球大会)、児童水泳記録会などを体育協会やスポーツ推進委員連絡協議会に委託し、多くの市民にスポーツの参加機会を提供する。</li> <li>・各地区の体育振興会がスポーツ推進委員等と協力して、地区内における「健康づくりのためのスポーツ」事業やスポーツを通じたコミュニティづくりなど、それぞれ特色のあるスポーツ活動を展開する。</li> </ul>							
複数年にわたる事業の場合進捗度等									
検討課題		一人でも多くの市民が気軽に参加できるように、大会運営方法や競技種目を検討する必要がある。							
当該年度の取組		<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭婦人バレーボール大会の開催・・・450人参加</li> <li>○ソフトバレーボール大会の開催・・・407人参加</li> <li>○グラウンドゴルフ大会の開催・・・261人参加</li> <li>○卓球大会の開催・・・中学生の部269人、一般・小学生の部ダブルス65組・個人1147人参加</li> <li>○児童水泳記録会の開催・・・153人参加</li> <li>など</li> </ul>							
改善案・方向性		各地区教育事務所管内での見直しや、受益者負担による大会運営方法などの見直しおこなった。今後も市内各所でスポーツ大会を行い市民が参加しやすい大会を開催していきたい。							

点検・評価対象テーマ		【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】			番号	34		
事業名	シティマラソン大会事業				↑ 達成度	重要度 →		
						A		★
担当課	スポーツ振興課	事業年度	平成23年度			B		
						C		
予算・決算		平成22年度決算	3,000 千円	平成23年度決算	3,500 千円	平成24年度予算	3,500 千円	
事業目的	<p>シティマラソンは、参加者の自己表現と健康増進を図るとともに大規模なスポーツイベントとして開催することにより、スポーツに対する意欲、関心を高めるとともに地域の活性化を図る。</p>							
事業内容	<p>市内外からの参加者が感動と満足感、達成感を感じられる大会を目指して、松阪地区陸上競技協会を中心とした実行委員会を組織して実施する。          種目 【10kmの部、5kmの部、3kmの部、ベアジョギングの部、ウォーキングの部】          主催 松阪シティマラソン大会実行委員会、松阪市、松阪市教育委員会          大会コース 中部台運動公園 周辺道路(ランニングの部)          鈴の森公園⇒中部台運動公園(ウォークの部)          メイン会場 中部台運動公園市民芝生広場(ランニングの部)          鈴の森公園(ウォークの部)          申込方法 郵便局窓口での申し込み          インターネットでの申し込み</p>							
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題	<p>参加者の満足感や達成感を高め、大会をさらに盛り上げるためには、魅力あるコースの設定とともに、イベントの充実や協賛スポンサーの獲得、スタッフの充実など、運営に一層の創意工夫が必要である。</p>							
当該年度の取組	<p>平成23年度の第7回大会では、参加者のアンケートなどを参考に様々な改善を行った。特に国道166号の一部をコースに取り入れたことは、参加者に好評で、過去最高の2,526人の参加申し込みがあった。</p>							
改善案・方向性	<p>健康や生涯スポーツに対する関心が年々高まっていることから、松阪シティマラソンの必要性や意義はますます強まるものと思われる。そうした中で、参加者を増やし、大会をさらに盛り上げるためには、魅力あるコースの設定が欠かせない。沿道の応援はランナーの励みになり、大会を盛り上げるが、沿道の応援や交通量の多い道路は、これまで以上に警察署等と交通規制等の協議が必要になる。コースの検討に当たっては、要望のあるハーフマラソンの導入も検討していかなければならない。</p>							

点検・評価対象テーマ		【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】			番号	35		
事業名		体育施設整備事業			↑ 達成度 ↓	重要度 →		
担当課		スポーツ振興課	事業年度	平成23年度		A		★
予算・決算		平成22年度決算	4,970 千円	平成23年度決算		B		
						C	B	A
					平成24年度予算	44,610 千円		
事業目的	競技スポーツから軽スポーツまで市民が気軽に親しめる多様なスポーツ振興を図ることのできる施設の環境整備を進める。							
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○飯南体育センター後付天井撤去他工事</li> <li>○松阪公園グラウンド補修工事</li> </ul>							
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題	<p>施策の目標でもある競技スポーツから軽スポーツまで市民が気軽に親しめる多様なスポーツ振興を図ることのできる施設の環境整備の中で、競技スポーツ施設の不足や各施設の老朽化による故障・破損等が多くなっていることが課題である。</p>							
当該年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○飯南体育センター後付天井撤去他工事（天井のロックウールを除去した）</li> <li>○松阪公園グラウンド補修工事（グラウンドの内野表面を不陸修正をした）</li> </ul>							
改善案・方向性	<p>平成23年度から取り組んでいるネーミングライツ・パートナー事業により3施設にそれぞれ応募者があった。平成24年度には施設との契約が成立した。このことにより新たな財源確保ができたことにより各施設の計画的な改修をおこなって行きたい。また、9年後に第76回国民体育大会や6年後の高校総体が開催されることから市内にある競技施設を再度調査し会場誘致等を検討して行きたい。しかし、厳しい財政状況の下では、利用状況や緊急性、必要性を十分考慮しながら、優先順位をつけて、効率的に整備していかなければならない。</p>							

点検・評価対象テーマ		【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】			番号	36			
事業名		スポーツ少年団補助金			↑ 達成度 ↓	重要度 →			
担当課	スポーツ振興課	事業年度	平成23年度			A		★	
						B			
					C				
予算・決算	平成22年度決算	2,362 千円	平成23年度決算	2,420 千円	平成24年度予算	C	B	A	
事業目的	スポーツを通じた子どもの健やかな成長を、地域の力で促進する各スポーツ少年団活動の活性化を図ることを目的とする。								
事業内容	この補助金は、松阪市スポーツ少年団に登録しているスポーツ少年団が取り組む活動等に要する経費の一部を補助し、松阪市スポーツ少年団に登録するスポーツ少年団に対して、下記のとおり算定で支援している。 各登録団へ運営活動費用1団30,000円と日本・県スポーツ少年団登録費(1人あたり団員登録費500円と1人あたり指導者登録費1,400円)を算定基礎として補助する。ただし、1団あたり団員は40名までと指導者は3名までとする。								
複数年にわたる事業の場合進捗度等									
検討課題	スポーツ少年団は、各団が活発に活動することによって青少年の健全な育成を目的に活動しています。この補助金においては、活動に必要な経費、大会に参加する経費等に当てており団の運営に必要なものと考えています。しかしながら、近年における少子化や社会状況の変化により青少年の余暇の過ごし方が多種多様なる中、スポーツへの関心が低くなりつつあるのも現状です。今後は、インターネットや広報誌などで各地域に登録しているスポーツ少年団を紹介していき登録団数、団員数の増加に協力して行きたいと考えています。								
当該年度の取組	団員1,080人×500円=540千円 指導者143人×1,400円=200千円 56団×30,000円=1,680千円								
改善案・方向性	補助額において、定額な部分や登録割の部分を見直し、より多くのスポーツ団体が松阪市スポーツ少年団に加入しやすい補助制度にしていきたい。								

評価シート

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】				番号	37		
事業名	学校支援地域本部事業					↑ 達成度	重要度 →		
							A		★
担当課	学校支援課	事業年度	平成20年度～平成24年度			C	B	A	
予算・決算	平成22年度決算	1,500 千円	平成23年度決算	1,500 千円	平成24年度予算	1,700 千円			
事業目的	<p>社会がますます複雑多様化し、子どもを取り巻く環境も大きく変化するなかで、学校が様々な課題を抱えているとともに、家庭や地域の教育力が低下する傾向にある。そのため、本事業により、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制整備の推進を図る。</p>								
事業内容	<p>コーディネーターにより、地域住民の中で次のようなボランティア活動をしていただける方を学校の教育活動支援につなげていく。            ①安全支援ボランティア(登下校の見守り)、②読書支援ボランティア(読み聞かせ、読書室整備)、③学習支援ボランティア(食農体験学習、外国語活動、調理・被服実習補助、雅楽演奏、地域文化継承、ゲストティーチャー、キャリアアドバイザー、など)            各ボランティアの支援内容に沿った研修を行う。</p>								
複数年にわたる事業の場合進捗度等	<p>平成20年度より、三雲中学校区が県教育委員会から研究委託を受け、本事業を展開してきた。そのなかで、次のようなことが見えてきた。            ・学校の職務を軽減する主旨から考えて、コーディネーターの各校配置が望ましい。            ・ボランティア対象の研修・交流会を開催することは、多様な面で効果が見られる。            ・市内全域のように多くの学校を対象とする場合、学校安全、読書活動、体験学習や伝統文化などの学習における支援が、特に汎用性が高く、導入時に効果的である。            平成23年度は、市内全域でボランティアを募集し、研修会等を行い活躍していただいた。</p>								
検討課題	<p>(1)学校教育の充実について            ①成果 指導要領改訂に伴う伝統音楽や外国語活動の学習支援を受けることができた。            ②課題 予算の都合上、コーディネーターの配置を十分に保障できていない。            (2)地域の教育力の向上について            ①成果 地域の伝統文化(かんこ踊り等)の継承に役立っている状況もみられている。            ②課題 学校教育への充実をすすめている段階であり、地域教育力には至っていない。            (3)学校・地域の連携の観点から            ①成果 家庭科等の実習で地域文化活動の拠点である公民館と連携することができた。            ②課題 早くから取り組んでいる一部の地域の活動にとどまっている。</p>								
当該年度の取組	<p>(1)安全支援ボランティア、読書支援ボランティアを対象とした研修会を開催する。            (2)学習支援ボランティアについて、内容別に人材バンクを編成する。            (3)地域全体で学校教育を支援するという趣旨を鑑み、幅広い分野の方々から参画を得て地域教育協議会を組織し、活動の企画、広報活動、事業評価等を行う。</p>								
改善案・方向性	<p>(1)松阪市全体に1名、平成24年度「コミュニティ・スクールの推進への取組」(文部科学省)の委託を受ける鎌田中学校区の小中学校に各1名コーディネーターを配置し、学校支援ボランティア活動の充実を図る。            (2)教育改革関連事業等説明会等を通して、各学校園に向けて本事業についての周知を図り、各校園においては、新たな人材発掘に努める。</p>								

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】			番号	38		
事業名		中原幼稚園園舎改築事業			↑ 達成度	重要度 →		
担当課		教育総務課	事業年度	平成22年度～平成23年度		A		★
予算・決算		平成22年度決算	5,004 千円	平成23年度決算		116,364 千円	平成24年度予算	
事業目的		<p>中原幼稚園は、築36年が経過し老朽化が進んでいる上に、平成18年度に行った耐震診断の結果、耐震指標を示すIs値が基準を下回っていることから園舎の改築を行う。園舎改築工事を行うことで、園児等の安全、安心な教育環境を整えることができる。</p>						
事業内容		<p>昭和50年3月及び平成元年1月に建築された旧園舎を解体し、園舎の改築工事を行う。平成22年度に園舎改築のための実施設計・地質調査を行ない、平成23年度に改築工事を実施する。 新しい園舎は、鉄骨造平屋建て428㎡。</p>						
複数年にわたる事業の場合進捗度等		<p>平成22年度に園舎改築のための実施設計・地質調査、平成23年度に園舎改築工事を実施し、計画通りに事業を完了することができた。</p>						
検討課題		<p>改築工事を進めるにあたっては、安全管理を徹底するとともに園児の幼稚園生活等に不都合が生じないように仮園舎の確保など幼稚園、工事関係者との協議を十分行っていく必要がある。</p>						
当該年度の取組		<p>園舎改築に当たっては、旧園舎を取り壊して新園舎を建設するまでの約9カ月間を中原小学校や小学校、幼稚園保護者等のご理解、ご協力の下、中原小学校内に仮園舎を設置することができスムーズに改築工事を実施することができた。 中原幼稚園園舎改築工事（工期：平成23年5月10日～平成24年2月15日） ・建築、・電気設備、・機械設備、・工事監理業務委託、 ・備品購入（机、椅子、絵本スタンド、給食用ワゴン等） ・消耗品購入（カーテン、ブラインド）等</p>						
改善案・方向性		<p>改築工事が完了したため、今後は、施設の適正管理に努めたい。 残っている幼稚園園舎の耐震化事業は、平成25年度に完成をめざす豊田幼稚園園舎改築事業のみとなった。</p>						

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】			番号	39		
事業名		豊田幼稚園園舎改築事業			↑ 達成度	重要度 →		
担当課		教育総務課	事業年度	平成23年度～平成25年度		A		★
予算・決算		平成22年度決算		平成23年度決算		5,935 千円	平成24年度予算	83,366 千円
事業目的		<p>豊田幼稚園は、築34年が経過し老朽化が進んでいる上に、平成18年度に行った耐震診断の結果、耐震指標を示すIs値が基準を下回っていることから園舎の改築を行う。園舎改築工事を行うことで、園児等の安全、安心な教育環境を整えることができる。</p>						
事業内容		<p>平成23年度に改築のための実施設計・地質調査を行い、平成24～25年度に園舎の改築工事を実施する。 新しい園舎は、鉄骨造平屋建て 453㎡。</p>						
複数年にわたる事業の場合進捗度等		<p>平成23年度に計画通り園舎改築のための実施設計・地質調査を行なった。 今後は、仮設園舎のリース契約、仮設園舎への引越し、現園舎の取り壊し、新園舎建築工事、新園舎への引越し、仮設園舎解体と事業を進めていく。</p>						
検討課題		<p>改築工事を進めるにあたっては、安全管理を徹底する必要がある。 また、仮設園舎を隣接する豊田小学校校庭に建設するため、園児・児童の幼稚園、学校生活等に不都合が生じないように幼稚園、小学校、工事関係者との協議を十分行っていく必要がある。</p>						
当該年度の取組		<p>豊田幼稚園園舎改築工事地質調査業務委託 工期：平成23年6月21日～平成23年7月25日 豊田幼稚園園舎改築工事实施設計業務委託 工期：平成23年5月31日～平成24年1月31日</p>						
改善案・方向性		<p>平成25年度に改築工事が完成すると、市内幼稚園の園舎耐震化が完了となる。</p>						

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】			番号	40		
事業名		天白小学校校舎増築事業			↑ 達成度	重要度 →		
担当課		教育総務課	事業年度	平成23年度～平成24年度		A		★
予算・決算		平成22年度決算		平成23年度決算		7,403 千円	平成24年度予算	153,378 千円
事業目的	<p>天白小学校区内の開発が進み人口が急速に増加し、これに伴い小学校への入学者が急増し、平成25年度以降教室不足が生じる状況となることから、校舎増築を行う。 校舎増築工事を行うことで、教室不足数が解消でき教育環境の整備充実を図ることができる。</p>							
事業内容	<p>平成23年度に増築のための実施設計・地質調査を行い、平成24年度に4教室の増築工事を実施する。 増築する校舎は、鉄骨造2階建て 614㎡。</p>							
複数年にわたる事業の場合進捗度等	<p>平成23年度に校舎増築のための地質調査と実施設計業務を行なった。 平成24年度に増築工事（普通教室4教室、児童用トイレ、職員トイレ、多目的トイレ）及び既設校舎の改修工事を実施する。</p>							
検討課題	<p>工事期間中の児童の安全確保や学校施設の使用制限などについて学校関係者と事前に協議を重ね、請負業者等との調整を十分に行い工事を実施する。 今後も地域の状況や人口動向に注目し、教室不足が生じないよう教育事務所等と連携を図っていく必要がある。</p>							
当該年度の取組	<p>天白小学校校舎増築工事地質調査業務委託 工期：平成23年5月9日～平成23年6月10日 天白小学校校舎増築工事实施設計業務委託 工期：平成23年7月26日～平成24年3月15日 構造計算適合性判定手数料</p>							
改善案・方向性	<p>平成21年度および22年度に教室改造工事を実施し、天白小学校の教室不足に対応しているが、「住民基本台帳に基づく校区別児童・生徒年度別調べ」によると、今後も児童生徒数の増加が見込まれている。 現在、天白小学校は15の普通教室を保有しているが、全く余裕教室がない状況であるため、平成24年度での増築工事の完成を目指していく。</p>							



点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】			番号	41		
事業名		大河内小学校プール改築事業			↑ 達成度	重要度 →		
担当課		教育総務課	事業年度	平成22年度～平成23年度		A		★
予算・決算		平成22年度決算	37,265 千円	平成23年度決算		C	B	A
事業目的		昭和56年度に建設された大河内小学校のプールは、築30年が経過し、経年とともに老朽化が著しく、機械設備の劣化、漏水が発生する状況とともに、県道の拡幅工事に伴う用地買収にプールの一部がかかるためプール敷地が狭くなり、平成23年度以降のプールの授業に支障をきたすことから改築工事を行う。						
事業内容		平成22年度測量調査設計 平成22～23年度 プール(ステンレス製、水面積250㎡)及び関連施設の改築工事を行う。						
複数年にわたる事業の場合進捗度等		平成22年度にプール改築工事のための測量調査設計業務を実施し、プール改築工事に着手した。当初工期は、平成23年1月7日から平成23年5月31日であったが、用地買収に伴う農用地除外、農地転用の手続きに平成23年1月末まで時間を要したこと及び改築工事現場前面で行なわれていた県道改良工事との工程調整により工期を6月30日まで1ヶ月延長した。						
検討課題		改築工事を進めるにあたっては安全管理を徹底するとともに、不都合が生じないよう小学校、工事を担当する土木課および工事関係者との協議を十分行っていく必要がある。						
当該年度の取組		大河内小学校プール改築工事 工期:平成23年1月7日～平成23年6月30日 ステンレス製プール、水面積250㎡(25m×10m) 備品購入 (ビート板整理棚、救命リング、プールすべり台等) 消耗品購入 (水泳用品…プカプカポール、SUNヘルパー)						
改善案・方向性		プール改築を行うことで、教育環境の整備充実を図ることができた。 今後は完成したプール施設の適正な維持管理に努めていく。 老朽化が進んでいる学校プールについては、実施計画に基づき計画的に改築を実施していく。						

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】			番号	42		
事業名	嬉野中学校特別教室棟改築事業				↑ 達成度	重要度 →		
						A		★
担当課	教育総務課	事業年度	平成22年度～平成23年度	B				
				C				
予算・決算	平成22年度決算	3,925 千円	平成23年度決算	68,891 千円	平成24年度予算	C	B	A
事業目的	<p>嬉野中学校特別教室棟は、築40年が経過し老朽化が進んでいる上に、平成18年度に行った耐震診断の結果、耐震指標を示すIs値が基準を下回っているため改築工事を行う。特別教室棟改築工事を行うことで、安全・安心な教育環境の整備が図られる。</p>							
事業内容	<p>昭和46年2月建築 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 304㎡の旧特別教室棟を解体し、特別教室棟の改築を行う。 平成22年度に改築のための実施設計・地質調査を行い、平成23年度に改築工事を行う。 新しい特別教室棟(木工室、金工室)は、鉄骨造平屋建て 299㎡。</p>							
複数年にわたる事業の場合進捗度等	<p>平成22年度に改築のための実施設計・地質調査を行い、平成23年度に改築工事、工事監理業務委託、備品等の購入を行ない計画通りに事業を完了することができた。</p>							
検討課題	<p>工事を進めるにあたっては安全管理を徹底するとともに、学校生活等に不都合が生じないように学校関係者および工事関係者との協議を十分行っていく必要がある。</p>							
当該年度の取組	<p>嬉野中学校特別教室棟改築工事、工事監理業務委託 工期:平成23年5月10日～平成23年12月7日 備品購入 (木工工作台、金工工作台、木製角机、液晶テレビ等) 消耗品購入 (カーテン、玄関マット等)</p>							
改善案・方向性	<p>平成23年度に実施した嬉野中学校特別教室棟改築事業及び嬉野中学校屋内運動場耐震事業の完了により、市内小中学校の耐震化事業が完了となった。 東日本大震災等で学校施設において非構造部材の被害が発生していることから、今後は非構造部材の耐震対策化の調査及び改修をしていく必要がある。</p>							

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】			番号	43		
事業名	嬉野中学校屋内運動場耐震事業				↑ 達成度	重要度 →		
						A		★
担当課	教育総務課	事業年度	平成22年度～平成23年度	B				
				C				
予算・決算	平成22年度決算	5,060 千円	平成23年度決算	177,027 千円	平成24年度予算	C	B	A
事業目的	<p>嬉野中学校屋内運動場・武道場は、平成16年度に行った耐震診断の結果、耐震指標を示すIs値が基準を下回っていることから耐震性を高めるため、耐震補強工事を行う。</p> <p>また、築38年が経過し外装、内装の老朽化が著しいため、併せて大規模改造工事を実施する。</p> <p>屋内運動場の耐震補強及び大規模改造工事を行なうことで、安全・安心な教育環境の整備が図られる。</p>							
事業内容	<p>平成22年度に耐震補強及び大規模改造のための実施設計を行った。</p> <p>平成23年度に耐震補強工事及び大規模改造工事を行い、耐震基準を満たす屋内運動場とする。</p>							
複数年にわたる事業の場合進捗度等	<p>平成22年度に耐震補強及び大規模改造のための実施設計を行い、平成23年度に耐震補強及び大規模改造工事を行う。</p> <p>計画通りに事業を達成することができた。</p>							
検討課題	<p>工事を進めるにあたっては安全管理を徹底するとともに、学校生活等に不都合が生じないように学校関係者および工事関係者との協議を十分行っていく必要がある。</p>							
当該年度の取組	<p>嬉野中学校屋内運動場耐震補強工事、工事監理業務委託</p> <p>工期：平成23年7月7日～平成24年1月13日</p> <p>備品購入（折りたたみ椅子、アルミ製階段等）</p> <p>消耗品購入（モップ、バスケットボール等）</p> <p>ピアノ運搬手数料</p>							
改善案・方向性	<p>市内小中学校の耐震化事業が平成23年度で完了となったが、小・中学校屋内運動場は児童生徒の学習・生活の場であると同時に、災害時には地域住民の避難場所となっている。このため、児童生徒の安全・安心を守るとともに地域防災の拠点としての役割を果たす上で屋内運動場の防災機能の強化を関係各課と協議しながら進めていく必要がある。</p>							

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】			番号	44		
事業名	小中学校備品台帳情報整備事業				↑ 達成度	重要度 →		
						A		★
担当課	教育総務課	事業年度	平成23年度			B		
						C		
予算・決算	平成22年度決算		平成23年度決算	9,765 千円	平成24年度予算			
事業目的	<p>松阪市立小中学校の備品台帳は、紙ベースの台帳を使用している。市町合併前に作成されたものであるため、備品番号、備品名等様々である。そのため、備品番号、備品名等を統一してデータベース化し、検索機能等も充実させ、備品管理の充実と効率化を図る。また、備品シールを新たに作成し備品管理の徹底を図る。</p>							
事業内容	<p>国の緊急雇用創出事業を活用し、市内小中学校48校の紙ベースの備品台帳をデータベース化するためのソフト整備と、約4万5千件の備品情報の入力作業および備品シール作成等の備品整備作業を行う。</p>							
複数年にわたる事業の場合進捗度等								
検討課題	<p>○完成した小中学校備品管理システムは、CDROMに保存して各校に配布した。データの破損等の懸念もあるため、2重、3重の方法でバックアップを確実にしていく必要がある。</p> <p>○エクセルで作成したシステムは使用途中で問題点等が出てくる可能性があるため、各校での使用で検証を重ね、バージョンアップしていく必要がある。</p> <p>○各校の職員にもシステムの操作方法を周知徹底し、備品管理や購入計画に有効活用していく。</p>							
当該年度の取組	<p>○小中学校備品管理システムへ移行するため、各小中学校で紙ベースの備品台帳と備品の点検、整合を行った。</p> <p>○緊急雇用創出事業により、16人の失業者の雇用を創出し、備品台帳のデータ入力作業を行うとともに、小中学校備品管理システムの開発支援を業者依頼し、このシステムを完成させた。</p> <p>○備品シールを作成し各小中学校に配布した。</p>							
改善案・方向性	<p>紙ベースであり、市町合併後もバラバラな様式であった備品台帳の統一ができ、備品管理や検索が容易になった。市内全小中学校の備品の把握も可能になったため、高額備品の貸借等も容易に行えるようになった。</p> <p>さらに管理や使用方法の改善を重ね、より良いものにしていきたい。</p>							

## 4 総評

6つの夢ナビゲーション別のそれぞれの事業の達成度は、概ね「達成できた」であり、今後も、さらに「達成できた」を目ざし、継続的に取り組んでいきます。また、厳しい財政状況の中、どの事業も重要度は高いものばかりです。今後、さらに厳しくなることが予想される中で、事業の重要度、達成度等を見極めながら、子どもたちや市民のために、「質の高い教育、文化にふれあうまちづくり」を実現するために各事業の取り組みを進めます。

## Ⅲ 教育委員会の活動状況

### 1. 委員選任状況

(平成24年3月末現在)

職名	氏名	任期
委員長	中村 真子	自 平成21年2月26日 至 平成25年2月25日
委員長職務代理者	長谷川直樹	自 平成22年2月26日 至 平成26年2月25日
委員	長島喜久雄	自 平成23年2月26日 至 平成27年2月25日
委員	西川 和夫	自 平成24年2月26日 至 平成28年2月25日
教育長	小林 壽一	自 平成21年3月25日 至 平成25年3月24日

※教育委員（教育長を含む。）任期は4年間。

### 2. 会議の開催状況

定例会	12回（毎月1回）
臨時会	2回

### 3. 審議状況

#### ア 付議案件数

議案	23件
報告	66件

#### イ 審議された主な議案等

- (1) 教育委員会規則等の制定・改正に関すること。
- (2) 人事に関すること。
- (3) 教育施策に関する基本的な方針に関すること。
- (4) 市議会に提出する予算等に関すること。
- (5) 文化財に関すること。
- (6) 審議会等委員の委嘱に関すること。
- (7) 教育委員会事務局各課の事業に関すること。
- (8) 児童生徒の問題行動等に関すること。

#### 4. 研修及び学校訪問等

教育委員会の教育委員、教育関係者を対象にした三重県、三重県市町教育委員会連絡協議会主催の研修会に参加し、「子どもたちの輝く未来づくりに向けた総力の結集」をテーマに研修しました。さらに、先進地の教育、教育行政を視察・研修するため、滋賀県近江八幡市の郷土資料館等と湖南市立岩根小学校を視察しました。近江八幡市では、松阪商人と同時期に江戸で商売に成功した近江商人の歴史を学びました。美しく保存されている文化施設が松阪市と共通するところが多く、大変参考になりました。岩根小学校は、文部科学省指定のコミュニティスクール調査研究校として先進的な取り組みをしており、松阪市の鎌田中学校区の小中学校との交流もあることから施設見学と意見交換を行いました。

また、市内の教育現場や文化施設等の状況を教育委員が直接見聞する機会として、平成 22 年度から 23 年度にかけて整備を進めている原田二郎旧宅、平成 22 年度に増築した中川小学校、平成 21 年度に増築した中川幼稚園の施設視察を行い、関係職員から説明を受けました。

## IV 第三者評価

### 1. 第三者評価委員

名 前	所 属 等
田川 敏夫	元三重中京大学客員教授 (元松阪市教育ビジョン構築検討委員会委員長)
森 吉男	松阪市社会教育委員長
太田 憲明	松阪市PTA連合会会長

### 2. 第三者評価の総評

#### 【田川敏夫委員】

#### (1) はじめに

「教育委員会活動の点検・評価報告書は、毎年、前年度の点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない」と法律によって定められている。

その目的とすることは、教育の目標達成のための事業の「P l a n」「D o」「S e e」「C h e c k」を効果的に行うことにある。

言うまでもなく、評価のための評価であってはならない。当該事業がどのように進捗され、効果はどうであったか、また、今後の検討課題はどこにあり、改善案・方向性は次年度にどう生かされたかが明らかにされる必要がある。

平成24年度の点検・評価（平成23年度事業に対しての）は、事業評価の方法は、前年度に方法を大幅に改善したこともあり、これまでの方法を踏襲しているが、このことは、妥当と思われる。ただ、各事業の「評価シート」の作成は、担当課で行っていることはよいとして、担当課以外の眼によって第三者評価（客観的評価）も必要なのではないか。その方法として、各課を横断する「点検・評価委員会」（場合によっては現場教師を含んでもよい）の設置も考えてもよい。

今年度の評価項目は、「夢ナビゲーション」の6つの大項目のもとに44の事業があるが、「達成度」「重要度」「総合評価」を合わせると132項目の評価がある。その中、A評価が118項目（約90%）、B評価が14項目で、C評価やD評価は0である。松阪市教育委員会の事業が大変うまくいっているのは、それこそ「評価」するとしても、もう少し厳しい眼もあって、さらに事業が進捗し、成果をあげるのではないか。そのためには、他者評価も考えてよいのではないか。

## (2) 各事業の達成度、重要度、総合評価、事業年度、決算額一覧表について

今年度は、3ページにカラーのイラストレーションで、「基本構想図」をつけたのは、「夢ナビゲーション」の全体構成を明らかにしてわかりやすい。この報告書が公表を前提にしたものであることから、一般市民にも親しみやすい方法である。

6つの大項目は、変わらないのは当然として、(1)項目に「ドキドキ！ワクワク！」(2)項目に「キッチリ！バッチリ！」など、キャッチフレーズを入れたのは新鮮味があって良い。

シート番号（小項目）は、昨年度の43項目が今年度は44項目とほぼ同じだが、それぞれ必要度に応じて、整理統合されている。

時代の変化に応じて必要な事業が変わっていくのは当然であるが、その中でも特に喫緊の課題に対処するための事業は、時にその年度の重要事業として特出ししてもよいのではないか。例えば、昨年から全国的な社会問題になった「いじめ対策」や、基礎学力の充実（三重県の全国学力テスト平均点が全国平均よりもかなり低位にあることが新聞報道され、知事部局でも対策が考えられている。）の問題など、毎年の事業の積み重ねだけでは対応しきれない課題もあるからである。

「評価シート」の点検・評価については、各事業ともよく整理され、的確になされている。

## (3) 最後に

松阪市教育委員会では、平成18年度に「松阪市教育ビジョン構築検討委員会」を設置し、1年間の議論を経て「松阪市教育ビジョン・夢ナビゲーション」を策定した。

平成20年度から、その理念とする「夢を育み 未来を切り拓く松阪の人づくり」を目指し、概ね10年間を目途とする教育事業を展開中である。

今年度の当報告書にも、その努力、意欲が随所に見られ、着々と「教育ビジョン」の実現が図られていることが感じられる。

松阪市の教育が、全県の、いや全国の先駆的役割を担うことを大いに期待するものである。

### 【森 吉男委員】

全般的に事業の内容は、高い評価が得られたと受け止めます。

開かれた学校 = 地元のボランティアの活躍、出番です。



## ○早朝読書指導

読み聞かせと低学年用に自作の紙芝居の読み聞かせを重ね、子どもたちに喜ばれている。また、子ども自身、図書に親しむ動機になった。

## ○料理教室（お母さん先生）

地元のお母さん（公民館の料理教室のメンバー）が先生になり、5～6人各グループに付き、地元の材料を取り上げ、楽しく実習が進み、お母さん先生は子どもたちに喜ばれています。次回どうするか・・・相互学習です。

## ○地元の古老中心にリーダー（各種団体）集合

まちづくり協議会の活動の中で、教育文化、スポーツ振興、交通安全、危険箇所点検、パトロール。

地元の祭りで伝統芸能（盆踊り）の練習、稽古

## ○職場体験学習

企業、商店主の理解と応援

わくわくワーク事業で中学生が職場で勤労体験を実施し、受け入れ事業所の協力もあると思うが、子どもたちに対する認識等好評だったと伺う。

## ○地元役員先頭に・・・

自然災害が「何時」どのような状態で発生するか予測するのは難しいが、一定の備え、予防体制を地域の実情を考慮し、一斉避難など小さな集まりで必要な訓練を立ち上げることも大切な一案でしょう。

次代を担う若者をみんなで育てていく取り組みの一つです。

今後、一層の成果の向上と発展を期待申し上げます。

## 【太田憲明委員】

24年度の事業について、総合評価が概ね「A」になっていることは良いことだと思いますが、それぞれの事業でいくつかの検討課題がある点が気にかかります。それらの課題に対応していくために、松阪市の教育行政に関わる方々が更に協議を深めていく必要を感じます。

また、評価の方法である「重要度」、「達成度」、「総合評価」について、その評価基準が、それぞれの担当者レベルになってしまうことに対して、第三者が評価できるような仕組みを考えることも、開かれた教育行政となるためには有効になるのではないのでしょうか。

## V おわりに

事業評価の結果、達成度でAが約91%、重要度のAは約95%、総合評価でもAが約86%で、概ね事業は達成でき、重要度が高く、計画どおりに事業を進めることが適当という評価になりました。しかしながら第三者評価でご指摘いただいているように、今後の検討課題はどこにあり、改善案・方向性は次年度にどう生かされたかが明らかにされる必要があると思われまます。前年度、事業評価の方法を大幅に改善した成果は現れていると思われまますが、担当課の自己評価であることなど、評価方法の改善も必要であると思われまます。

総合評価は、教育委員会として考える今後の事務事業の方向性を示す指標です。個々の具体的な内容においては、改善や工夫に努めなければならないと思われまます。

厳しい財政状況の中、どの事業も重要度は高いものばかりです。社会情勢も急激に変化しており、教育をめぐる課題も複雑かつ多様化しています。今後も住民ニーズへの対応と教育課題の解消に向け、事務事業の優先度や緊急度等を勘案し、引き続き計画的、重点的な事業実施に努めなければならないと思われまます。また、第三者評価委員の皆様からいただいたご意見やご提言を今後の事務事業に反映させ、責任ある教育行政の推進に努めてまいります。